

例題本意 『和文独訳の実際』

(Praxis der Übersetzung aus dem Japanischen ins Deutsche)

関口存男著 (東京 三修社版)

序 言

1. 本書は、普通の文法書に出て来る程度の知識を前提とした、いわば高級程度の作文教科書である。

2. 随意的な内容の例題を随意的な数だけ集めたのでは、構文の筋道を覚える事が出来ないから、本書は文法をテーマとし、一つの筋道を会得したら、それを用いて諸種の場合を解決しうる如く仕組んだ。つまり「公式とその応用」という行き方である。

3. その公式は、謂わば無限に存在するわけであるが、本書はまずその第一輯である。何から始めても結局同じであるが、第一輯であるから、まず高級程度の研究者にとって一番有益であろうと思われる種類のもの、即ち熟語動詞の用い方、前置詞の用い方、冠詞の用い方の特徴的なところを辿り、所々作文一般の要諦と云ったようなものを挿入した。

4. 次に本書が最も重きを置いた練習問題の件であるが、練習問題というと当然二つのメトードが考えられる。一つは、たとえば私が目下独文世界思潮の和文独訳欄でやっているように、日本文を与えて、それを色々とドイツ語で言い表わす方法で、これは謂わば「日本語中心的」である。

第二の方法というのは其の逆で、まずドイツ語に訳した際の構文から出立して、学修者が問題を一読すれば、略々誰でも帰せずして原案に近い構文に思い当たるとく、初めから日本語をそういう風にしつらえて置く方法である。この方法は、日本語の題そのものが、いわゆる直訳口調で、ただそれをドイツ語に置き換えるだけの努力で独文が出来上がる。本当に「考えさせる」ためにはこれでは不可いのであるが、文法を中心にした、用句を頭っから与えてかからなければならない場合には、この方法で行かないと、学修者を余り宙に迷わせる事になる。また、難易の点から行えば此の方法の方が第一の方法よりずっと楽で、従って短い期間に多くの例題をやる事が出来るから、独作文に余り慣れない人には、むしろ此の方法の方が適当ではないかと思われる。以上のような理由で、本書は特に「独文中心的」ということにした。問題の日本語が直訳調なのは此のためである。

此の方法は、学修者がどしどし自分で自分の例題を作る事ができる。即ち、これぞという句を和訳しておいて、それを今度は逆に独文に直すという方法である。これは広くおすすしたい。

5. 例題には、日本文の中へ括弧で仕切って直ぐに用語を示した。名詞や形容詞はすぐ其の儘用いられるが、動詞とか熟語とか云ったようなものは、挙げてある用法をよく呑み込んで、構文の際にトンチンカンをやらないようにして頂きたい。何でも其の儘使えるというわけではなくて、一つはこれも好い練習である。

昭和 7(1932)年 著 者

改訂に際して

これはもう古い本で、内容から云っても少し時代遅れの観がありますが、乞われるままに改訂して出す事にしました。というのは、多少時代遅れでも、中に取り上げてある項目の中には、たとえば局限化の *in* とか獲得目標の *um* とかなんとか云った、現在では最早高級研究者の間に常識(*gang und gäbe*)なってしまった項目が多少あり、それらはやはり "現象の指摘" という意味で私自身の歩んできた道を漠然と示しているし、そ

れらを系統的に全部発表するということは、私の現在の年齢から見て、どうせ不可能な事は解って来ましたから、せめてこんな安易な発表だけでも出せる時には出しておいた方がよかろうと思った訳です。甚だ勝手な、全然個人的な動機ですが、私自身の研究法に対して多少たりとも関心を持って頂ける人間にとっては多少の意義があると思います。

昭和 32(1957)年 著 者 識

[1] 熟語動詞の語順 (1)

新法令は、たとえ両院の協賛を経ずとも、
本月二十五日を以て効力を生ずる。

Das neue Gesetz tritt auch ohne die Zustimmung
der beiden Häuser mit dem 25. dieses Monats in Kraft.

熟語動詞に最も多いのは in Kraft treten(効力を生ずる) außer Kraft treten(無効になる) außer Kraft setzen(無効と宣言する) vor Anker liegen(碇泊する) das Wort ergreifen(発言する) in [die] Erscheinung treten(現れる) zugrunde richten(破壊する)等、動詞に何等かの規定の附いたものであるが、これらの規定句は、文章内にあっては、分離動詞の分離前綴りと同じ扱いをし、従って、正置法に於いては、一番最後に位置しなければならない。Das neue Gesetz tritt in Kraft auch ohne 云々とするは例外的である。英語式の語順と間違えぬこと。

備考 [1] in Kraft, außer Kraft, vor Anker, nach Hause 等の前置詞を伴う句にあっては、例外的な数個の型を除いて、大概冠詞が無いのを以て熟語の特徴とする。in die Erscheinung treten の如きも、此の意味に於いて、追々 in Erscheinung treten という形で用いられ始める傾向がある。---但し或種の場合には冠詞の有無によって意味に区別のある場合もある。in Ordnung sein(整然としている) in der Ordnung sein(当然である、敢えて異とするに当たらず)等。

備考 [2] 動詞的要素以外の文肢の配列法は、大抵の場合日本語で云って見たのと同じ順序であると思って宜しい。即ち、日本語に於いては、動詞が一番最後に来るから、動詞と密接な関係にあるもの程最後に持ってくるが、ドイツ語も同様で、たとえ定形(tritt等)が最初にあっても、規定句(in Kraft)のところが動詞のつもりで、即ち日本語の通りの順序に各概念を並べて行くのが宜しい。引用した文例に於いては「本月二十五日を以て効力を生ずる」が最も重要な点であるから、mit dem 25. dieses Monats を動詞以外の要素の最後位に置いたのである。若し auch ohne 云々を強めんとするならば此の方を後に置くことも出来る。

例 題

1. 大統領 (Reichspräsident, m.) は従来の (bisherig) 布達 (Anordnung) を緊急法令 (Notverordnung) によって無効宣言する。

Der Reichspräsident setzt die bisherige Anordnung durch eine Notverordnung außer Kraft.

2. 最近 (neulich) 発布 (erlassen) された緊急法令は今や (nunmehr) 或種の意味に於いて、主として (hauptsächlich) 財界 (Finanzkreise, pl.) を好都合にしている (einem in die Hände arbeiten)。

Die neulich erlassene Notverordnung arbeitet nunmehr in gewissem Sinne hauptsächlich den Finanzkreisen in die Hände.

3. 大統領は、己がより良き見解(bessere Einsicht)にも拘わらず、事態を考慮して(unter Berücksichtigung der Umstände)時制遅れな(veraltet)法律を尊重(hoch in Ehren halten)している。

Der Reichspräsident hält trotz seiner besseren Einsicht unter Berücksichtigung der Umstände die veralteten Gesetze hoch in Ehren.

4. 古い法律は、その使用に堪えざる性質(Unbrauchbarkeit)のため(wegen)のみならず、むしろ主としてそれを行使(handhaben)する人々の無能さ(Unfähigkeit)によって滅びる(zugrunde gehen)ものである。

Die alten Gesetze gehen nicht nur wegen ihrer Unbrauchbarkeit, sondern hauptsächlich durch die Unfähigkeit derjenigen, die sie handhaben, zugrunde.

5. 緊急法令はその余りに(allzu)詳細なる(detailliert)規定(Satzung)によって、遂には(am Ende)国家国土(Staat und Land)を滅亡に陥入れる(zugrunde richten)。

Die Notverordnung richtet durch ihre allzu detaillierten [allzu genau ausgeführten] Satzungen am Ende Staat und Land zugrunde.

6. 若年の代表(Delegierte, 形)は、必要たる可き語学的知識の不足のため(in seinem Mangel an erforderlichen Sprachkenntnissen)そのより良き見解にも拘わらずちっとも発言しない。

Der junge Delegierte ergreift in seinem Mangel an erforderlichen Sprachkenntnissen trotz besserer Einsicht niemals das Wort.

7. 我々の船は数ヶ月間の(monatelang)航海(Fahrt, f.)の後今や遂にサンフランシスコに(in)投錨するに至った。

Unser Schiff liegt nach monatelanger Fahrt nun endlich in San Francisco vor Anker.

8. 今や緊急勅令の悪(böse)結果が、一時の(zeitweilig)好況気分(Prosperitätsstimmung)にも拘わらず丁度(genau)私が云って置いた通りに(nach meiner Angabe)現れてきた[現在]。

Nunmehr treten die bösen Folgen der Notverordnung trotz der zeitweiligen Prosperitätsstimmung genau nach meiner Angabe in [die] Erscheinung.

[2] 熟語動詞の語順 (2)

新法令は、たとえ両院の協賛を経ずとも、
本月二十五日を以て効力を生ずる筈。

Das neue Gesetz wird auch ohne die Zustimmung der
beiden Häuser mit dem 25. dieses Monats *in Kraft treten*.

前項に述べたことは、動詞そのものが定動詞(verbum finitum)となって前に立ち、規定句が一番最後に来たが故に一種特別な語順として述べる必要があったが、定動詞が助動詞となる場合(wirdin Kraft treten; istin Kraft getreten, etc)には、動詞の部分が一個所に集まるが故に、in Kraft が動詞の不定法又は過去分詞の直前に来るのは極く自然であり、要するに分離動詞の用法と同一の語順になることを益々証するのみである。従属文になれば in Kraft treten wird; in Kraft getreten ist 等の語順になることも、特に断わる必要はなからう。

例 題

1. 第一次世界大戦 (der erste Weltkrieg) 後に於ける経済危機 (Wirtschaftskrise, f.) は、大戦後しばらく経た後にやっと (erst in den späteren Nachkriegsjahren) ドイツ其の他の数カ国に於いて現れたものである。

Die Wirtschaftskrise nach dem ersten Weltkrieg war erst in den späteren Nachkriegsjahren in Deutschland und einigen anderen Ländern in Erscheinung getreten.

2. あなたは、昨日の新聞のあなたの求人広告 (Stellenangebot, n.) に於いて、速記 (Stenographie, f. Kurzschrift, f.) とタイプライティング (Maschinenschreiben) とを条件として御発表になりました (als Bedingung hinstellen)。

Sie haben in Ihrem Stellenangebot in der gestrigen Zeitung Stenographie und Maschinenschreiben als Bedingung hingestellt.

3. 国民は立憲君主政体の樹立を布告 (proklamieren) する臨時政府の声明 (Erklärung) を感激を以て迎え (mit Begeisterung aufnehmen) た。

Das Volk hat die Erklärung der provisorischen Regierung, die die Einrichtung einer konstitutionellen Monarchie proklamiert, mit Begeisterung aufgenommen.

4. 公人は彼等が公に為すところの事柄をば、彼等が平素 (sonst) 諸種の機会に云って来たところの事柄 (das, was) と一致せしめ (in Einklang bringen) なければならない。

Die öffentlichen Personen müssen das, was sie öffentlich tun, mit dem, was sie sonst bei verschiedenen Gelegenheiten gesagt haben, in Einklang bringen.

5. 此の種の (dieser Art) 用心 (Vorsicht, f.) は、左様な用心 (eine solche) を必要とし (verlangen) ない事情 (Umstände, pl.) の下にあつて、しかも何等悪いこと (Schlimmes) を考えていない人々に向かって (gegenüber III.) は処置の当を得たもの (am Platz sein) でない。

Vorsicht dieser Art würde unter den Umständen, die eine solche nicht verlangen, und gegenüber Leuten, die an nichts Schlimmes denken, nicht am Platz sein.

6. 商会 (Firma, f.) の支配人 (Geschäftsführer) は明日多分 (höchstwahrscheinlich) 最も上品な (elegant) 事務室 (Geschäftsraum, m.) の一つを我々に提供 (zur Verfügung stellen) してくれるだろう。

Der Geschäftsführer der Firma wird uns morgen höchstwahrscheinlich einen der elegantesten Geschäftsräume zur Verfügung stellen.

7. 両国の全権 (die Delegierten) は数ヶ月以来 (seit Monaten) 停頓し (ins Stocken geraten) ていた商議 (Verhandlungen) を、必死に尽くし難き (unbeschreiblich, unsäglich) 努力 (Bemühungen) によって (durch; unter III.) 再び円滑にした (wieder in Gang setzen, bringen)。

Die Delegierten der beiden Länder haben die Verhandlungen, die seit Monaten ins Stocken geraten waren, unter unsäglichem Bemühungen wieder in Gang gesetzt.

備考 [1] als Bedingung hinstellen, mit Begeisterung aufnehmen 等はその時々造って行くものではあるが、その規定部が相当動詞と密接な関係を持っていれば、自然述語動詞と同じ扱いをするようになる。

[3] 熟語動詞の語順 (3)

その日その日の凡ての重要な出来事を読者に報道するのが新聞記者の任務である。

Es ist die Aufgabe der Journalisten, die Leser von allen wichtigen Ereignissen des Tages *in Kenntnis zu setzen*.

zu を伴う不定法の句になっても、述語動詞の語順は前項に述べたところと同様である。in Kenntnis setzen が熟語であるから、語順は恰も in Kenntnis が setzen の分離前綴であるかのように扱い、zu は其の間に這入る。(つまり fortzusetzen の fort, einzusetzen の ein と同じ場所に in Kenntnis を置くのである。)

断る必要もないと思うが、英語式に Es ist die Aufgabe der Journalisten, zu setzen in Kenntnis die Leser von allen.....等と並べるのは不可である。(そう云う場合も無いではないが、そういう時にはまた別な理由があり、別な筋道がある)。

例 題

1. 仲介人(Vermittler)は、その何時もの(sonstig, gewohnt)殆ど諺(Redensart, f.)にまでなってしまった利口さ(Klugheit)にも拘わらず、丁度(gerade)最も重要な点を等閑に附する(außer Acht lassen)というヘマをしでかした(das Unglück haben)。

Der Vermittler hat das Unglück gehabt, trotz seiner gewohnten, fast zur Redensart gewordenen Klugheit, gerade den wichtigsten Punkt außer Acht zu lassen, .

2. 独逸宰相(Reichskanzler)は、凡ゆる国民派乃至君主派の(monarchistisch)煽動(Verhetzung)に抗して(einer Sache zum Trotz)従前通り(alt)の共和思想(republikanische Gesinnung)を維持す(aufrecht erhalten)べく全国民を励ました(auffordern)。

Der Reichskanzler forderte das ganze Volk auf, allen nationalistischen oder monarchistischen Verhetzungen zum Trotz die alte republikanische Gesinnung aufrecht zu erhalten.

3. 現代の戦争に於いては、往々にして、唯一台(ein einzig)の爆撃機(Bombenflugzeug, n.)がありさえすれば(genügen を用いよ)敵兵の数万(Zehntausende)を五分間で(in)撃滅(in die Flucht schlagen)することが出来る。

Im modernen Krieg genügt oft ein einziges Bombenflugzeug, mehrere Zehntausende von feindlichen Soldaten in fünf Minuten in die Flucht zu schlagen.

4. 夜暗に乗じて(bei Nacht und Nebel)要塞(Fort, n.)の付近に上陸(sich ans Land bringen)せんとした敵軍(Heer)の試みは、守備部隊(Besatzungstruppen)の警戒(Wachsamkeit, f.)によって失敗に帰せしめ(vereiteln)られた。

Das Unternehmen des feindlichen Heeres, sich bei Nacht und Nebel unweit des Fortes ans Land zu bringen, ist durch die Wachsamkeit der Besatzungstruppen vereitelt worden.

5. 経営者(Betriebsleiter, m.)は、好意を以て(mit Wohlwollen)我々を迎え(jemanden aufnehmen)、我々が彼に提出(etw. bei jemandem einreichen)した抗議(Vorstellungen, pl.)を考慮する(etwas in Überlegung nehmen)ことを約束した。

Der Betriebsleiter nahm uns mit Wohlwollen auf und versprach, die Vorstellungen, die wir bei ihm einreichten, in Überlegung zu nehmen

6. 我々が今から(im voraus)楽しみにしている(sich auf **IV.** freuen)遠足(Ausflug, m.)は、我々の朋輩の数名の罹病(Erkrankung)のためにおじゃんになり(ins Wasser fallen)そのような形勢である(in Gefahr sein,zu)。

Der Ausflug, auf den wir uns im voraus freuen, ist in Gefahr, wegen der Erkrankung von einigen unserer Kameraden ins Wasser zu fallen.

7. 行列(Prozession; Zug)は今や(eben)観衆一同(die Zuschauer; die Zuschauenden; die Umstehenden)の拍手喝采(lautes Händegeklatsch)と歓呼(Jubelruf, m. Halloruf, m.)の裡に(unter **III.**)徐々と、厳かに(feierlich)動き(sich in Bewegung setzen)かけていた(im Begriff sein,zu)。

Der Prozession war eben im Begriff, unter lautem Händegeklatsch und Hallolrufe der Zuschauenden sich langsam und feierlich in Bewegung zu setzen.

8. 警官(der Polizeibeamte)等は、既に始めから(von vorn herein)弁士(Redner)の数名を検束(festnehmen, sistieren)し、その他の(den Rest der.....)参会者(die Versammelten)を空しく(unverrichteter Dinge)退散せしめ(nach Hause schicken)よとの命令を受けて(haben)いるのである。

Die Polizeibeamten haben von vorn herein den Befehl, einige Redner festzunehmen und den Rest der Versammelten unverrichteter Dinge nach Hause zu schicken.

[4] 形容詞を基礎とする冠飾句

我々にとっても世界にとっても共に禍なる
第二次世界大戦は 1945 年に終結した。

*Der sowohl für uns als auch für die Welt verhängnisvolle
Zweite Weltkrieg kam im Jahre 1945 zum Schluss.*

「或物は云々である」と云う sein を用いる文章、即ち所謂命名文(Nennsatz)を従属文形にして「云々であるところの或物」と云うには、普通三通りの方法が考えられる。

[1] 関係代名詞による方法。Der Zweite Weltkrieg, der sowohl für uns als auch für die Welt verhängnisvoll gewesen war, kam im Jahre 1945 zum Schluss.

[2] 形容詞を基礎とする附属句。Der Zweite Weltkrieg, sowohl für uns als auch für die Welt verhängnisvoll, kam im Jahre 1945 zum Schluss。(或いは verhängnisvoll を sowohl の前に置くも可。)

備考[1] verhängnisvoll-の語尾は、普通の形容詞の場合に従って、それぞれ格語尾を採る。

例 題

1. どの国家も、その領域(Gebiet, n.)の面積(Flächeninhalt, m.)にのみならず、また国民(Staatsangehörige)の数と富裕の度(Wohlstand, m.)に比例する(proportional)首都を持つ(besitzen)たなければならぬ。

Jeder Staat muss eine nicht nur dem Flächeninhalt seines Gebietes, sondern auch der Zahl und dem Wohlstand der Staatsangehörigen proportionale Hauptstadt besitzen.

2. 高齢(hohes Alter)のために其の職(Amt, n.)に堪えざる(einer Sache nicht gewachsen)市長は国王の許に(bei)退職願を提出(um seine Entlassung einkommen)し、新たな市長が任命(ernennen)された。

Der wegen seines hohen Alters dem Amt nicht gewachsene Bürgermeister kam beim König um seine Entlassung ein und ein neuer Bürgermeister wurde ernannt.

3. 将軍は兵力一万二千(zwölftausend Mann stark)の軍勢(Armee, f.)の陣頭に(an der Spitze)立ち、彼と遠い親戚関係にある(mit jemand weitläufig verwandt) Lipke が副官(Adjutant)として彼を補佐(jemandem zur Seite stehen)した。

Der General stand an der Spitze der zwölftausend Mann starken Armee und der mit ihm weitläufig verwandte Lipke stand ihm als Adjutant zur Seite.

4. 彼の、その言葉の最も良心的(gewissenhaft)なる意味に於いて厳密に科学的(streng wissenschaftlich)なる畢生の著作(Lebenswerk, n.)は、その出版後(nach seinem Erscheinen)全世界によって完全に(vollgütig)認められるには約(rund)五十年を要した。

Sein im gewissenhaftesten Sinne des Wortes streng wissenschaftliches Lebenswerk brauchte nach seinem Erscheinen rund fünfzig Jahre, um vollgütig von der ganzen Welt anerkannt zu werden.

5. 亜米利加合衆国(Vereinigte Staaten von Amerika)大統領 Hoover は、凡ゆる中傷(Verleumdung)にも拘わらず、すべての債務者(Schuldner)にとって[三格]実は内々(im Grunde des Herzens)非常に嬉しい(willkommen)モラトリウム(Moratorium, n.)によって本邦に於いて(bei uns)有名になった。

Hoover, Präsident der Vereinigten Staaten von Amerika wurde bei uns bekannt durch sein trotz aller Verleumdungen allen Schuldnern im Grunde des Herzens willkommenes Moratorium.

6. 建築用石材(Baustein, m.)は、建築工事の現場(Baustelle, f.)から大して遠くないところにある(nicht allzuweit entfernt)採石坑(Steinbruch, m.)に於いて得(gewinnen)られ、すぐその場で(an Ort und Stelle)寸法通りの(einbaufähig)形を授けられる(erhalten)。

Die Bausteine werden in einem von der Baustelle nicht allzuweit entfernten Steinbruche gewonnen und erhalten gleich an Ort und Stelle die einbaufähige Form.

[5] 過去分詞を基礎とする冠飾句

殆ど半年の間、守備隊によって勇敢に防禦された要塞は、五月六日、遂に陥落した。

Die fast ein halbes Jahr lang von den Besatzungstruppen tapfer verteidigte Festung fiel endlich am sechsten Mai.

過去分詞を基礎とする冠飾句に就いて注意すべき点が二点ある。一つは受動能動に関する問題、もう一つは時称の問題である。

Die vergangene Nacht(昨夜)と Die begangene Tat(犯されたる犯行)とを比較して見ると、vergangen の方は vergehen(過ぎ去る)に対して能動の意味であるが、begangen の方は begehen(犯す)に対して受動の意を持っている。過去分詞を形容詞的に用いる際には此の区別に注意しなければならない。

では如何なる過去分詞が能動の意を持ち、如何なる過去分詞が受動の意を持つかとい

うに、それは、その不定詞が自動詞であるか他動詞であるかに依って決する。自動詞であれば、理屈の上から云っても、受動の意は考えられない。(たとえば「過ぎ去られた夜」は意味をなさない)。他動詞の場合には、過去分詞の意味は常に受動的である。

此の点を考えないと、たとえば「細君に逃げられた男」を *Der von seiner Frau entlaufene Mann* とやったり、「河豚[ふぐ]を食った男」を *Der einen Kugelfisch gegessene Mann* とやったりすることになる。前者の方はむしろ「自分の細君の許を逃げ出した男」の意に取れ(*von* を除く方が可)、後者は *einen* を *von einem* と直せば「河豚にたべられた(*gefressene*)男」の意になる。

次には少々面倒な時称の件であるが、まず自動詞の過去分詞は、能動の意を有すると同時に、その名の示す如く過去の意を持っている。*Die vergangene Nacht* は「過ぎ去る夜」ではなくて「過ぎ去った夜」である。現在の意の場合には現在分詞を用いて、*Die vergehende Nacht* と云わなければならない筈である。-----ところが他動詞の過去分詞の場合には、元来は其の名の如く過去の意になるのが本当である(*Die begangene Missetat* は「犯された罪」であって「犯される罪」ではない。*etc.*)が、斯ういう受動の場合には現在を同様な形式で言い表す方法が無い(現在分詞を用いると受動の意ではなくなるから)、それ故或種の場合には、受動現在時称の意にも此の過去分詞形を用いることがある。たとえば *Die oft begangene Missetat* は、「度々犯された罪」「度々犯される罪」のどちらに用いてもよろしいので、其の間の区別は、ドイツ語としては明確に区別することが出来ないのである。その間を明らかに区別する必要がある時には、現在の意の際にはむしろ *Die Missetat, die oft begangen wird* と、関係文を用いて云い現わした方がよろしい。

例 題

1. 最近(*in letzter Zeit*)発明された *Avertin* の服用(*Einverleibung*)に際しては、患者(*Patient, m.*)は何等の(*irgendwelch*)不快な感じ(*Empfindung*)もなく深き無意識の状態に陥入る(*versinken*)。

Bei Einverleibung des erst in letzter Zeit erfundenen Avertins versinkt der Patient ohne irgendwelche unangenehme Empfindung in den Zustand tiefer Bewusstlosigkeit.

2. 最近の大火(*Großfeier, n.*)の際に失われ(*verloren gehen*)た原稿(*Manuskript, n.*)の写し(*Abschrift, f.* *Kopie, f.*)は、目下(*augenblicklich*)我々凡てによって[その死が]悼まれ(*beweinen*)ている詩人の寡婦の許に在る(*sich befinden*)。

Die Kopie des bei dem letzten Großfeier verloren gegangenen Manuskripts befindet sich augenblicklich bei der Witwe des von uns allen beweinten Dichters.

3. エネルギー換置(*Energieumsetzung*)の立場から云えば、学理的には(*theoretisch*)最も完全に考案(*ausdenken*)され、且つ技術的には(*technisch*)最も精巧(*fein*)に制作(*ausführen*)された白熱灯(*Glühlampe, f.*)と雖も(*selbst*)かなり(*recht*)不完全な機械(*Gerät, n. Apparat, m.*)である。

Vom Standpunkt der Energieumsetzung ist jedoch selbst die theoretisch am vollkommensten ausgedachte und technisch am feinsten ausgeführte Glühlampe ein recht unvollkommenes Gerät.

4. 修繕(*Reparaturen, pl.*)実施(*Vornahme, f.*)のための、蒸気(*Dampf, m.*)によって充たされた場所(*Raum, m.*)の通過(*Befahren, n.*)は、熱避けに(*zum Schutz gegen.....*)頭に冠った(*über den Kopf ziehen*)石綿帽(*Asbesthaube, f.*)と白綿マントを以て従来は行われてきた。

Bislang geschah das Befahren von mit dem Dampf erfüllten Räumen zur Vornahme von Reparaturen mit einer zum Schutz gegen die Wärme über den Kopf gezogenen Asbesthaube und einem Asbestmantel.

5. 筒コンパス(Kronzirkel, m.)なしに円筒(Rohr, n. Zylinder, m.)の直径(Durchmesser, m.)を計る(messen)には、両端に(an)各々(je)一個の鉄の母螺(Eisenmutter, f.[pl. -- n])を以て重くされ(beschweren)た糸(Schnur, f.)を上から(von oben)円筒の上へ懸ける、そして糸[pl.]の間隔(Abstand, m.)を計る。

Um den Durchmesser eines Rohrs ohne Kronzirkel zu messen, hängt man eine an beiden Enden mit je einer Eisenmutter beschwerte Schnur von oben auf das Rohr und misst den Abstand der Schnüre.

6. 合衆国の多くの都市に於いて(in 三格)採用(einführen)された牛乳の強制消毒(Zwangspasteurisierung)は、その地に於いてはもはや牛乳のために(durch)惹起(verursachen)される伝染病(Epidemien)が全然ないか、それとももはや殆ど無い(Es gibt keine oder kaum noch)という好結果(Erfolg, m.)をもたらし(haben)た。

Die in vielen großen Städten der Vereinigten Staaten eingeführte Zwangspasteurisierung der Milch hat den guten Erfolg gehabt, dass es dort keine oder kaum noch durch Milch verursachte Epidemien gibt.

7. 飛行機からのビラ(Flugblatt, n. Flugzettel, m.)の撒布(Zerstreuung, Verbreitung)は盛んに(vielfach)利用(anwenden)される、特に(insbesondere)大都会(Großstadt, f.)に於いて非常に有効(wirkungsvoll)なる宣伝手段(Propagandamittel, n.)である。

Die Verbreitung von Flugblättern vom Flugzeuge aus ist ein vielfach angewendetes, insbesondere in den Großstädten sehr wirkungsvolles Propagandamittel.

[6] 現在分詞を基礎とする冠飾句

目下東京に於いて開催中の校長会議は
来週末に終了の筈である。

Die zurzeit in Tokio tagende Rektorenkonferenz wird
Ende nächster Woche zum Abschluss gelangen.

現在分詞を基礎とする冠飾句は、前項に於いて一言した如く、必ず能動現在時称の意味に用いられるものである。Die Rektorenkonferenz, die zurzeit in Tokio tagt という代わりに、関係代名詞以下を冠飾句として前に持って来ると思えばよろしい。

これらの冠飾句は、関係代名詞を用いては全文の関係があまり複雑になり過ぎる時に好んで用いられるものであるが、そうでなくても、時事文、その他、多少事務的な文体(所謂 Kanzleistil)には比較的多く用いられるから、造り慣れておくと便利である。

例 題

1. 益々(immer mehr)悪化(sich verschlechtern)する日本農業(Landwirtschaft)の状態(Lage)は、本邦経済総体(unsere ganze Wirtschaft)の中心問題(Kernproblem, n.)に(zu)なってきた。

Die sich immer mehr verschlechternde Lage der japanischen Landwirtschaft ist zu einem Kernproblem unserer ganzen Wirtschaft geworden.

2. 今日なお支那に於いて現存(bestehen)せる曆(Kalender, m.)の(zu)基礎(Grundlage, f.)は既に西暦紀元前(v. Chr. [vor Christo])二千七百年、黄帝(Huang-Ti)の治下に於いて(unter)築(legen)かれた。

Die Grundlage zu dem auch heute noch in China bestehenden Kalender wurde unter Huang-Ti im Jahre 2700 vor Christo gelegt.

3. 丁度セメント(Zement, m.)が砂を結合して鞏固なベトンの塊(Betonblock, m.)になす(zuverbinden)如く、凝固して氷になる(zuerstarren)水は、水の染み渡った(von etwas durchsetzt sein)物質を結合して密実(kompakt)な抵抗力ある(widerstandsfähig)塊(Masse)にかえる(zubinden)。

Ebenso wie Zement den Sand zu einem festen Betonblocke verbindet, so das zu Eis erstarrende Wasser bindet die von ihm durchsetzten Stoffe zu einer kompakten, widerstandsfähigen Masse.

4. 学校で(auf)は、石炭(Steinkohle, f.)は数百万年継続する(währen)変遷の過程(Umwandlungsprozess)の中に生じたものであると教えているが、或種の(gewisse; die bestimmte)炭種(Kohlenart, f.)は過渡作用(Übergänge, pl.)なしにも造(bilden)られ得るのである。

Auf der Schule wurde uns gelehrt, dass die Steinblocke in einem Millionen Jahre währenden Umwandlungsprozess entstanden sei. Die bestimmte Kohlenart kann aber ohne Übergänge gebildet werden.

5. 十月二十日 Koburg に於いて举行される(stattfinden)瑞西皇太子(Kronprinz)の結婚式には、三千名以上(nicht weniger als; mehr als; über)の貴族(Adlige)と将校とが参列(an III. teilnehmen)する筈。

An der am 20. Oktober in Koburg stattfindenden Hochzeit des schweizerischen Kronprinzen werden nicht weniger als dreitausend Adlige und Offiziere teilnehmen.

6. 既にかれこれ(bald)三週間ばかり前から(seit)続行されて(dauern)いるギャング事件(Gangsterprozess)の(in)今日の審議(Verhandlung)の終わり(am Schluss)に於いて裁判長(der Vorsitzende)は明日判決(Urteilsverkündung)が申し渡される(erfolgenを用いよ)旨を告げ(mitteilen)た。

Am Schluss der heutigen Verhandlung im schon seit bald drei Wochen dauernden Gangsterprozess teilte der Vorsitzende mit, dass die Urteilsverkündung morgen erfolgen werde.

[7] 未来受動分詞を基礎とする冠飾句

彼はたとえ何によっても惑わすことの出来ない自信を持っている。

Er besitzt ein *durch nichts zu beirrendes* Selbstvertrauen.

durch nichts zu beirrend-(何によっても惑わすことの出来ない)、*von einander zu unterscheidend-*(それぞれ区別しなければならない)、*leicht zu handhabend-*(取り扱い易き)等、*zu* を伴う現在分詞を形容詞に用いる云い方がある。これは、その次に来る名詞から出立して考えれば、「何によっても惑わされ難き」、「相互から区別される可き」、「容易に取り扱われ得可き」等、とにかく受動の意になり、同時に「せざる可からず」又は「され得る」など、とにかく時間的には未来に関係のある意味を持っているので、これを未来受動分詞と呼んでもさしつかえあるまいと思われる。

[註] 単に未来分詞と呼ぶのは不適當である。何故というに、抑々分詞なる名をつけるのは、ラテン文法の先例から来ているので、これらの *end* に終わる形が、意味の上で

も語尾の上でもラテン語の *gerundivum* という形(たとえば *bella vitanda, non timenda sunt* 戦争は避ける可きであって、恐れる可きではない)にそっくりである所から其の名称を採用するのであるが、然りとすれば「未来分詞」なるものはラテン語には別に存している(それは又全然違った語尾-*turus* 等をとる)が故に、既に其の事実のみによっても、ドイツ語の *zu.....end* なる形を単に「未来分詞」と呼ぶのは不可である。

此の形は、その意味を考えると、二つの主な傾向を持っている。一つは *durch nichts zu beirrend-*の如く *welches durch nichts beirrt werden kann* (*können* に注目せよ)とも云い換えられるように、「能う」の意味を持って居る。もう一つの場合は *immer aufrecht zu erhaltend-* (常に厳然と維持すべき)の如く *welches man immer aufrecht erhalten soll [od. muss]*とも云い換えられるように、「ねばならぬ」の意に用いる。-----但し、必ず其のいずれかに限るというのではない。大抵の場合は其の両方を併有するような意味の際に用いることが多い。*voneinander zu unterscheidend-*なぞがそれで、「それぞれ区別し得べき、従ってまた区別しなければならない」の意を持っている。要するに、漢語口調の「.....可き」という、「可し」の有する意味を二つながら備えていると思えばよろしいのである。

此の形は、また、いわゆる附加語的用法(附加語という意味は時としてもっと広義に用いられる事があるから、名詞の前に「冠せて修飾する」という意味で私は「冠飾句」と呼びたい)にのみしか用いない。述語的(客語的)用法の際には次項の如く *zu* を伴う「不定法」(-*d*を除いたもの)を用いる。

最後に受動という点に就いて一言。日本語でも「区別すべき二つの場合」なぞと云って、必ずしも「区別されるべき」と受け身的に云い廻す必要はないから、「受動」というのは単なる一つの解釈に過ぎないではないかと云う人に対して申し訳をしておくが、これは論理的に考えても、たとえば *unterscheidender Punkt* と *zu unterscheidender Punkt* とは *unterscheiden* なる動作の関係が全く反対であるので充分に分かると思うが、その他にも、ドイツ人の心理がこれを或種の受動形として感じているという一つの証拠がある。たとえば-----

[A] *Die Frage wird von den Fachleuten entschieden.*

(問題は専門家によって決せられる)。

この"von"が、*zu.....end* の句にあっても其の儘用いられるという点である。

[B] *Die von den Fachleuten zu entscheidende Frage.*

(専門家によって決せられるべき問題)。

例 題

1. お月様のまわりの暈(*der Hof*)は、光線の屈折(*Strahlenbrechung*)に帰す(*auf etwas zurückführen*)べき一つの光学的(*optisch*)現象である。

Der Hof um den Mond ist eine auf Strahlenbrechung zurückzuführende optische Erscheinung.

2. 肺の容積(*Fassungsvermögen, n.*)と混同(*verwechseln*)してはならない「肺の力」なるものは、いわゆる気圧計(*Manometer, n.*)を以て計ることができる。

Die mit dem Fassungsvermögen der Lunge nicht zu verwechselnde "Kraft der Lunge" kann man mit dem sogenannten Manometer messen.

3. 只今の所(*zunächst*)専門委員会(*Sachverständigenausschuss, m.; Sachverständigenkomitee, n.*)によって取ら(*unternehmen*)るべき処置(*Schritte, pl.*)は、該事件(*die Angelegenheit*)が今後(*noch*)取る(*nehmen*)可き経過(*Verlauf, m.*)如何に依る(*von etwas abhängen*)。

Zunächst hängen die vom Sachverständigenausschuss zu unternehmenden Schritte von dem

Verlaufe ab, den die Angelegenheit noch nehmen wird.

4. その覚え (behalten) 易い名称のために小学児童 (Abc-Schütze) にすらも (jeder を用いよ) 知られているペルー (Peru) のチチカカ湖 (Titikaka-See, m.) は、アンデス山脈 (die Anden) の山湖である。それは海面上 (über dem Meeresspiegel) 3750 メートルに横たわっている。

Der jedem Abc-Schütze wegen seines leicht zu behaltenden Namens bekannte Titikaka-See in Peru ist ein Bergsee der Anden. Er liegt 3750 Meter über dem Meeresspiegel .

5. 彼の社会哲学上の (sozialphilosophisch) 根本思想 (Grundanschauung) によれば、社会主義的体系は二個の相互の区別すべきグループ (Gruppe, f.) に分かれる (in [IV.] zerfallen)。

Seiner sozialphilosophischen Grundanschauung nach zerfallen die sozialistischen Systeme in zwei von einander zu unterscheidende Gruppen.

6. インフレ (Inflation) と闇 (Schieberei) と食糧不足 (Lebensmittelknappheit) は三つの互いに引き離 (trennen) せぬ密接に (eng) 相互に結びつけ (verknüpfen) られた問題である。

Inflation, Schieberei und Lebensmittelknappheit sind drei nicht von einander zu trennende, eng miteinander verknüpfte Probleme.

7. 独逸連邦議会 (Reichstag) によって決議 (beschließen) せらるべき、憲法変革的 (verfassungsändernd) 法令 (Gesetz, n.) に依って大統領フォン・ヒンデンブルクの任期 (Amtsdauer, f.) を延長せんとする連邦宰相 (Reichskanzler) の提議 (Vorschlag, m.) は、当日の (des Tages) 自明的 (selbstverständlich) 議題 (Thema, n.) である。(勿論当日の主たる議題であるの意)

Der Vorschlag des Reichskanzlers, die Amtsdauer des Reichspräsidenten von Hindenburg durch ein vom Reichstage zu beschließendes verfassungsänderndes Gesetz zu verlängern, ist das selbstverständliche Thema des Tages.

8. 芸術品 (Kunstgegenstand, m.) を商う (mit etwas handeln) 者は、時々 (bisweilen)、殆ど空想的 (phantastisch) と名づける可きほどの、そして物品の本当の値打ちに比例しない (in keinem Verhältnis zu etwas stehen) ような儲け Gewinn, m.) をする (erzielen) ことがある。

Wer mit Kunstgegenständen handelt, kann bisweilen einen geradezu phantastisch zu nennenden, und in keinem Verhältnis zum wahren Wert der Sachen stehenden Gewinn erzielen.

[8] zu を伴う不定法と sein

所要の金額は殆ど調達不可能である。

Der nötige Betrag *ist* kaum *aufzubringen*.

「殆ど調達すべくない金額」と云おうとするならば、前項で練習した未来受動分詞を用いて Der kaum aufzubringende Betrag とやるところであるが、この未来受動分詞を述語的 (客語的) に用いて、即ち ist, sind 等を介して形容詞的に用いるときには、たとえば Der nötige Betrag ist kaum aufzubringend とは云わないで、最後の -d [拉丁語の -andus, -endus 等の d] を取り去って、結局形式としては zu を伴う不定法を用いることになる。

この際の意味も亦前項の未来受動分詞と同じように、「出来る」という場合と、「せねばならぬ」という時と、それからその両方にかかる場合とがある。「できる」の意の場合には、動詞によると -lich, -bar の語尾の形容詞があるから、その方を用いるのと全然

同じで何等の区別もない。たとえば *nicht zu denken* は *nicht denkbar, undenkbar* と同じであり、*nicht zu verstehen* は *unverständlich* と同じである。ただ、純形容詞の方は、*-bar* の事があり *-lich* のことがあり、動詞によると *-bar* も *-lich* も存在しない事があって、其処には何等の一般的規則もないが、*zu* を伴う不定法の方は一律に造り得る便宜がある。ことに論文、時文では此の語法が非常に多く用いられる。

[参考]「云々なし得る」(即ち「なされ得る」の意)の意を表現するのにドイツ語には次の七つの方法がある。

1. (man 等を主語に) *Das kann man noch verstehen.*
2. (再帰形) *Das versteht sich noch.*
3. (再帰形 lassen) *Das lässt sich noch verstehen.*
4. (*-lich, -bar*) *Das ist noch verständlich.*
5. (*zu* と不定法) *Das ist noch zu verstehen.*
6. (受動形) *Das wird noch verstanden.*
7. (受動と können) *Das kann noch verstanden werden.*

例 題

1. 革命の原因は先ず (*zunächst*) 人民の (*Bevölkerung*) 政府に対する (*mit*) 各方面的 (*allseitig*) 不満の念に (*in*) 求める (*suchen*) べきである。

Die Ursache der Revolution ist zunächst in der allseitigen [weit verbreiteten] Unzufriedenheit der Bevölkerung mit der Regierung zu suchen.

2. 日本内地 (*das innere Japan, das Innen-Japan*) に於ける一住宅に対する平均 (*durchschnittlich; Durchschnitts-*) 建築費 (*Baupreis, m. Baukosten, pl.*) は、最近の統計 (*Statistik, f.*) によると約五千元と (*auf*) 見積もつ (*schätzen*) てよろしい。

Der durchschnittliche Baupreis für eine Wohnung im inneren Japan ist nach der neuesten Statistik auf etwa fünftausend Yen zu schätzen.

3. 己が運転安全性 (*Fahrsicherheit, f.*) を害する (*beeinträchtigen*) が如き [程度の] 酒類 (*geistige Getränke*) の飲用 (*Genuss, m.*) の後、自動車 (*Kraftwagen*) またはオートバイ (*Kraftrad, n.*) の操縦席 (*Führersitz, m. [は auf] Steuerrad, n. Steuer, n. [は an]*) に座し、そのために (*dadurch*) 事故 (*Unfall*) を惹起し (*verursachen; herbeiführen*) たる自動車類運転手 (*Kraftfahrzeugführer---jedem* を用いよ) は、仮借するところなく (*unnachlässig*) 運転手免許証 (*Führerschein, m.*) を没収 (*entziehen*) す可し。[和文の意に関しては第 11 項参照]

Jedem Kraftfahrzeugführer, der sich nach einem seine Fahrsicherheit beeinträchtigenden Genuss geistiger Getränke ans Steuer des Kraftwagens oder auf ein Kraftrad sitzt und dadurch einen Unfall herbeiführt, ist unnachlässig der Führerschein zu entziehen.

4. 实际的 (*praktisch*) には吾人は真の世界の代わりに (*an die Stelle* と 2 格) 表象の世界 (*Vorstellungswelt*) を据え (*stellen*) ることができるが、しかし (*allein*) 学理的 (*theoretisch*) には此れ等の二つの (*beide*) 世界は厳密に区別すべきである。

Praktisch können wir die Vorstellungswelt an die Stelle der wahren Welt stellen, allein theoretisch sind diese beiden Welten streng zu unterscheiden.

5. 直接或いは間接に過度の (*übermäßig*) 暑熱 (*Hitze, f.*) の影響に帰せらるべき死亡 (*Todesfälle, pl.*) 数は今や五百に達する (*betragen*) 。

Die Zahl der Todesfälle, die direkt oder indirekt auf den Einfluss der übermäßigen Hitze

zurückzuführen sind, beträgt jetzt fünfhundert.

6. 進化論的 (evolutionistisch) 社会主義を奉ずる人たち (Vertreter) は、社会主義は望んだり要求 (fordern) したりなぞすべきではなく (nicht etwa)、むしろそれは、社会の (gesellschaftlich) 発展の一環 (Glied, n.) として自然的必然的に (naturnotwendig) 到来すべき筈 (müssen) であると言明する。

Die Vertreter des evolutionistischen Sozialismus erklären, dass der Sozialismus nicht etwa zu wünschen oder zu fordern sei, sondern dass er naturnotwendig kommen müsse, als Glied einer gesellschaftlichen Entwicklung .

7. 仏国首相エリオ (Herriot) の巴里よりの (aus) 帰還 (Rückkehr, f.) と共に、今日午前、果然 (wirklich) ローザンヌ会議 (Lausanner Konferenz) の決定的 (entscheidend) 段階 (Stadium, n.) が始まった。人々は、恐らく (vielleicht, wahrscheinlich, höchstwahrscheinlich) 一つの妥協点 (Vergleichspunkt) が見出され得るであろうと期待している (man rechnet damit, dass.....)。

Mit der Rückkehr von dem französischen Ministerpräsidenten Herriot aus Paris hat heute Vormittag wirklich das entscheidende Stadium der Lausanner Konferenz begonnen. Man rechnet damit, dass vielleicht ein Vergleichspunkt zu finden sein wird.

[9] zu を伴う不定法と haben

我々はなお夥多[かた]の障害に打ち勝たなければならぬ。

Wir haben noch manche Hindernisse zu überwinden.

意味の上から考えると、zu を伴う不定法と haben の構造も亦、前項の場合と同じように、ほぼ二つの意味を持っている。基本的な意味は、題文に挙げたのとは少し違っていて、たとえば-----

Es hat gar nichts zu bedeuten.

に於いて現れている hat.....zu である。これは文字通りに「.....云々すべく持つ」であって、「それは全く何事をも意味すべく持たない」(それは大したことではない)と云えば略わかる。その他 Wir haben nur ein Leben zu verlieren (我々は只ひとつの命しか失う可く持たない、命の懸け替えはない)等では明らかに Wir können nur ein Leben verlieren と können の意を持っている。ところが、此の形式が多く用いられる結果、遂には、「.....せねばならぬ」の意にも用いられるようになる。その移り行きは極く自然で、たとえば-----

Auch er hat ein Wort mitzureden.

即ち「彼も亦共に語る可く一言を持つ」(語ろうと思えば語れる)が「彼も発言権を持っている」の意に用いられるのは極く自然である。

故に、前述の二つの意味を両極として、その中間の各種の場合に此の語法を使い消化し得る如く修練を経ることが必要である。

[備考]「.....語れる(können)」から「.....語らねばならぬ(sollen, müssen)」の間に懸けて用いられる点で、これは前項の"zu を伴う不定法と sein"の関数とも称すべきもので、殊に「ねばならぬ」の意の際は、一方で云えるものは大抵他方でも云える。

Wir haben noch manche Hindernisse zu überwinden

=Noch manche Hindernisse sind zu überwinden.

例題

1. 然し乍ら、理屈から云っても (logischer Weise) 既成 (bestehend) 社会の行き詰まりと崩壊 (Not und Zerfall) からして本当のうまい汁を吸う (eigentliche Früchte ernten) ことの出来る [立場にある] 政党、即ち (nämlich) 共産党が何等数字の増加 (steigende Ziffern) を示し (aufweisen) 得ないと云うのは、一たいどう説明すればよいのだろうか？

Aber wie erklärt es sich [wie ist es zu erklären], dass diejenige Partei, die logischer Weise aus Not und Zerfall der bestehenden Gesellschaft die eigentlichen Früchte zu ernten hat, nämlich die kommunistische Partei, keine steigenden Ziffern aufzuweisen hat?

2. 節約という理由から (aus Sparsamkeitsgründen) 自然は人間の器官 (Organ, n.) に往々 (oftmals) 二重の役目 (Rolle, f.; Funktion) を課する (aufgeben, übertragen)、たとえば中耳 (Mittelohr) は聴かなければならないと同時にまた均衡をも受け持た (für etwas sorgen) なければならない。

Aus Sparsamkeitsgründen überträgt die Natur den Organen des Menschen oftmals doppelte Funktionen, zum Beispiel hat das Mittelohr zu hören und zugleich auch für das Gleichgewicht zu sorgen.

3. 亜米利加に於いては、鉄道は本邦に於ける (bei uns) よりもなお以上に無軌道の乗物 (schienenlose Fahrzeuge) との競争 (Konkurrenz, f.) に悩まされ (unter etw. leiden) なければならない。自動車と飛行機は鉄道から [3 格] 客 (die Kundschaft) を奪つ (entziehen) てしまう。

In Amerika hat die Eisenbahn noch mehr als bei uns unter der Konkurrenz der schienenlosen Fahrzeuge zu leiden. Autos und Flugzeuge entziehen der Eisenbahn die Kundschaft.

4. 考え得る限り (denkbar) 最も理想的 (ideal) なる飛行機は、殆ど (nahezu) 垂直 (senkrecht, lotrecht, vertikal) の方向に (inRichtung) 土地 (Erdboden) から上昇 (aufsteigen, sich erheben) し、非常な速力を以て飛翔 (dahinfliegen) し、しかも (aber auch; trotzdem) 同一個所で (auf einer Stelle) 随意に (beliebig) 浮かび (schweben)、且つ着陸 (Landung, f. Landen, n.) の際にはまた垂直に降り (niedergehen) なければならない。

Das denkbar idealste Flugzeug hat sich in nahezu senkrechter Richtung von dem Erdboden zu erheben, mit großer Geschwindigkeit dahinzufliegen, aber auch auf einer Stelle beliebig zu schweben und beim Landen wieder lotrecht niederzugehen.

5. 番人 (Wächter, m.) は閉店時刻前 (vor Ladenschluss) 各室の隅々 (Ecken und Winkel) を検べ (durchsuchen) ねばならぬ。何故というに、泥棒が既に (bereits) 昼間家屋内に潜在 (sich verstecken, sich aufhalten) していると云う事もあり得るからである。

Der Wächter hat vor Ladenschluss alle Ecken und Winkel der Geschäftsräume zu durchsuchen, da die Diebe sich bereits während des Tages in dem Gebäude aufhalten können.

6. 国君 (Fürst; Landesherr; Regent; Herrscher) は只一般の (gemeinsam; allgemein) 意志を遂行 (vollstrecken) すべきであって、民意に抗 (sich einem Dinge entgegenstellen) するが如き (wenn を用う) は己が使命 (Berufung; Aufgabe) に抵触 (gegen etw. verstoßen; einer Sache zuwiderlaufen) するものである。

Der Fürst hat nur den allgemeinen Willen zu vollstrecken und er verstößt gegen seine Berufung, wenn er sich dem Volkswillen entgegenstellt.

[10] **zu** を伴う不定法と **kommen, bekommen, gehen, es gibt, bleiben** 其の他。

最近の出来事には、かなり色々な事を考えさせられる

Die Ereignisse der letzten Zeit *geben* manches *zu denken*.

「云々し得る」「云々しなければならぬ」の意の **zu** を伴う不定法は、主語の如何によって、また文脈の如何によってなお **geben, bekommen** 其の他と結合して用いることができる。

- [1] 「云々する材料を供給する」の意には **geben** を用いる。
(Er gibt mir zu essen und zu trinken.)
- [2] 「云々する材料を手に入れる」の意には **bekommen** を用いる。
(Er bekam zu essen und zu trinken.)
- [3] 「云々すべき(「し得る」又は「せねばならぬ」)ものがある」の意には **es gibt** を用いる。(Bei ihm gibt es nichts zu essen und zu trinken.)
- [4] 「云々すべき(「し得る」又は「せねばならぬ」)ものが残っている」の意には **bleiben** を用いる。(Es bleibt nichts mehr zu essen und zu trinken.)
- [5] 「云々すべきものを発見する」の意には **finden** を用いる。
(Was finden Sie zu lachen?)
- [6] 「偶然云々するに至る」の際には **kommen**(又は **bekommen**)を用いる。
(über etwas zu sprechen kommen; neben einem zu sitzen kommen; zu hören bekommen 等の熟語)

[備考] **zu** を伴う不定法は其の他諸種の動詞と結合して諸種の話法を表現し得るが、たとえば **scheinen**(云々する如く思われる)**pflügen**(云々するのを例とする)等は普通の文法書にも出て来るから、特に問題にはしないことにする。

例 題

1. 彼は彼女を我が家で迎え(**empfangen**)たくなかったので(**und**)彼女を或る珈琲店(**Café, n. Kaffeehaus, n.**)に招いた。ところが彼女は、其処ではゆっくり(**ungestört; in Ruhe**)話することが出来ないと云って(**zu verstehen geben; zu bedenken geben**)、彼が彼女の所へ来てはどうか(**solle; sollte**)と提議(**vorschlagen**)した。

Er wollte sie nicht zu Hause empfangen und lud sie in ein Café ein. Aber sie gab ihm zu bedenken, dass sie dort nicht ungestört reden könnten und schlug vor, er sollte zu ihr kommen.

2. 日本公使館(**Gesandtschaft**)の発表(**Verlautbarung; Bekanntmachung**)は、社会党员(**Sozialisten**)の意図(**Absichten**)と、政府が先頃(**kürzlich**)漏らした(**zu erkennen geben**)それとの間に存する(**bestehen**)区別を示す(**aufzeigen**)ものである。

Diese Verlautbarung der japanischen Gesandtschaft zeigt den Unterschied auf, der zwischen den Absichten der Sozialisten und denjenigen, die die Regierung kürzlich zu erkennen gab, besteht .

3. 我々はまだ色々なこと(**manches; mancherlei**)について語らなければならぬから、

食事の際には (bei Tisch; bei der Mahlzeit) なるべく (möglichlicherweise) 並んで (nebeneinander)、それとも、もしそれが不可能ならば、せめて (wenigstens; mindestens) 向かい合って座ることになるようにし (so einrichten, dass.....) なければならない。

Da wir noch über manches zu sprechen haben, müssen wir es so einrichten, dass wir möglicherweise nebeneinander, oder, wenn es nicht geht, mindestens uns gegenüber zu sitzen kommen.

4. 革命、それは実際 (ja) かれに取っては、彼が平素 (sonst) 扇動政治家 (Demagog; Agitator) たちの口から毎日毎日 (tagtäglich) 承らされていた「権力行使」 (Machtergreifung) がどうのこうのと云う [単に von を用う] 凄文句 (scharfe Phrase) とは全然別個のものであった。

Revolution, sie war ja für ihn etwas ganz anderes als die scharfe Phrase von der Machtergreifung, die er sonst tagtäglich aus dem Munde der Agitatoren zu hören bekommen hatte.

5. 彼は何処へ行っても仕事が手に入る (zu arbeiten bekommen) に拘わらず、ただ色々 (viel) と見習う (sehen und lernen) 事のある大規模な公共的な建築事業 (Bauten, pl.) にのみ這入 (an etw. unterkommen) ろうと努める。

Obwohl er überall zu arbeiten bekommen kann, sucht er nur an großen öffentlichen Bauten unterzukommen, wo es viel zu sehen und zu lernen gibt.

6. 「劇映画 (Spielfilm, m.) を見ていると (in) 走って行く自動車の車輪が時々逆に (rückwärts) 廻っ (sich drehen) たり、止まっ (stille stehen) たり、或いは自動車の動きに比べて (im Vergleich zu) ずっと (viel zu) おそく進む (sich vorwärts bewegen) ように見えることがあるが、此の錯覚 (Täuschung) はどうして生ずる (zustande kommen) か？」これが我々の先生が我々に解く (lösen) 可く授け (geben) たところの課題であった。

"In Spielfilmen scheinen sich die Räder eines fahrenden Autos bisweilen rückwärts zu drehen, stille zu stehen oder sich im Vergleich zur Bewegung des Autos viel zu langsam vorwärts zu bewegen. Wie kommt diese Täuschung zustande?" Dies war die Aufgabe, die unser Lehrer uns zu lösen gab.

[11] 文を句で考えよ

儲けが減れば物も大抵ぐんと悪くなる

Mit dem Sinken der Gewinnung ist meist auch eine erhebliche Qualitätsverschlechterung verbunden.

文 (此处では所謂従属文) というのは、所謂定形 (verbum finitum) を含む構造である。「儲けが減れば」というのを Je kleiner der Gewinn ist 或いは Wenn die Gewinnung abnimmt と いえば、それは原文たる日本語の方と同じように、一つの文章である。なぜと云うに、其処には定動詞 (動詞の定形) である ist, abnimmt 等があつて、その他主語も備わっているからである。たとえ定動詞はなくても、とにかくそれが省かれている時、たとえば Je kleiner der Gewinn, 及び、主語が省かれてある時、たとえば Je weniger gewonnen wird 等 もやはり文章である。

句というのは、定動詞がなく、また省かれても居ず、また補って考えて見ることも出来ない場合、即ち、基礎が名詞になっているもののことである。たとえば dass das Flugzeug abstürzt (飛行機が墜落すること) は文章であるが、それと同意の Der Absturz des Flugzeuges (飛行機の墜落) は句である。同じように、weil er kein Gewissen hat (彼が良心

を持たないので)は文であるが、wegen seiner Gewissenlosigkeit(彼の無良心のために)は句である。

こう云ったように、文の簡単なものは大抵同じことが句で云え、句は反対に必ず文で表現し得ると云うことを忘れてはならない。和文独訳は、要するに日本語で云ってある「意味を」独逸語で云えば好いのであるから、日本語の方が文の形式で云ってあるからと云って、それに相当するドイツ語を必ず文で云わなければならないという理屈は何処にもない。そう考えるから和文独訳が非常に窮屈にもなり、また拙[つたな]くもなるのである。殊に、全体の傾向として、少し外国語、ことに論文時事文に慣れて来ると誰でも気の附く事であるが、日本語でならどうしても一つの文を成しそうな複雑な構造が、ドイツ語では巧みに句で表現されていると云う事実である。今までの準備的な練習問題を忠実にやって来た人は、度々その事実にてくわされたことと思う。が、気の附かなかった人のために、既に一度やった練習問題の中から二三そうした例を引いて見よう。

[1] その覚え易い名称のために小学児童にすらも知られているチチカカ湖は.....[名前が覚え易いために.....の代わり]

[2] 革命の原因は先ず人民の政府に対する各方面的不満の念に求めるべきである。[革命は先ず人民が政府に対して諸種の点に於いて不満を抱いていたという事実から出立している]

[3] 己が運転安全性を害するが如き程度の種類の酒類の飲用の後.....[車を運転した場合には非常な危険が生ずる程の程度に酒などを飲んだ上で.....]

今までの練習問題に於いては、和文を独文に合わせて、その儘を綴って行けばとにかく人並みのドイツ語が出来上がるように仕組んだから、従って日本語だけを見ると一寸頭を捻るような場合が多々あった。もし「車を運転すればどんな過ちが起こるかも知れないほど酒を飲んだ上で」と問題が出ていれば、それをドイツ語式な概念構造に変えて「己が運転安全性を云々」等と考え得るためには余程の修練を積む必要がある。和文独訳の最も困難なところは、こういう点にあるのである。

一 先ず概念構造を
日本語で考えて見よ

だから、こういう点が段々とわかって来たならば、原書を読む際、独文和訳をやる際等に、「抑々ドイツ人はどういう風な考え方をするか」という点に注意を向けて、その色々な筋道を覚える事が必要である。また、こういう事は、特に注意を向けるまでもなく、自然と感染するものらしい。たとえば、近頃の日本語などは、欧州諸語の感化を受けて、四五十年前の日本語に比べると、随分と変わって来ている。「云々するには余りに云々である」とか、「私は云々すべく余儀なくされた」とか、「云々した事程左様に云々であった」とか、「自由への一路」の「への」という云い方とか、その他一たいに固い感じのする名詞的構造(真実「性」なぞ)はすべてそうして出来たものである。いわゆる「直訳調」というのがこれである。

和文独訳をやる際には、この直訳調なるものに対して我々が持っている或種の感じを利用すると非常に便利である。即ち、一寸見ると、どう扱って好いか、まるきり見当の附かないような日本語に臨んだとする。それを、日本語の構造のままに即して考えたところで、それは到底ドイツ語にはならない。なったにした所で、それは大抵の場合好いドイツ語ではない。そうかと云って、そうした本当に日本語臭い日本語を一寸眺めただけで、その意味がすぐそれとは全然違ったドイツ語式な概念の構造で考えられるようになれというのは、蓋し無理な註文と云わなければならないまい。それよりも、もっと近づき易い方法がある。それは、日本文を見たら、ドイツ語で訳したり単語を考えたりする前に、先ずお得意の日本語でもって、同じことを直訳調で云い換えて見ると云う行き方である。たとえば、「時計を見たら十時だった」という簡単な文句でも此の儘をドイツ語にしようとするとかかなり骨が折れる。Als ich die Uhr sah, war es zehn Uhr. などというと、「時計さんにお眼にかかった時には十時だった」という意味になる(正しくは Als ich auf die Uhr sah)と云ったように、かえって困難が多いものである。それよりも、「時計は十を示していた」(Die Uhr zeigte 10.)と考えた方がそれが反って無難なドイツ語になると

云ったような場合の方が比較的多い。いずれにしても、策を多くし、案を豊かにするための一便法として、この方法には特に親しむべきであると思う。

以上は日本語とドイツ語では、往々にして、否大抵の場合、単に単語や文法が異なるのみならず、概念その者の内的構造が根本的に違っているという話しにすぎないが、此处で問題にしている文と句との関係も、斯様な相違を意識するための一つの重要な筋道である。

大抵の場合、日本語では文で云いそうな概念機構がドイツ語では句に集結しているのが普通であって、其の反対の場合は寧ろ例外である。それは独文を日本文に訳する時に、句を文に解きほごさなければ日本語に無理の生ずる場合が非常に多いのでもわかる。

同じ意味の事が、ドイツ語で、文でも句でも云われることの多いのは勿論であって、これも凡ゆる機会に「此处はどちらでやるか」と云ったように、意識的に使い分けるように習慣づけなければならない。

最後に一例として、題文の「儲けが減れば物も大抵ぐんと悪くなる」というのを考えて見ると、もし文字通りに考えようとすると、

Wenn der Gewinn abnimmt, so wird gewöhnlich die Qualität
um ein Beträchtliches schlechter.

と云ったようになって、「ぐんと」という *um ein Beträchtliches, um ein Bedeutendes* と云ったようなものに非常な苦心が生ずるのみならず、出来上がった独文その者が、左程好くない。それよりも、題文にあげたような考え方に範を取って、何かもっとドイツ語式な云い方はないかと苦心するようにする癖が附いていれば、それが文を句にかえることによって一新生面を拓くと云う事が決して稀ではない。論文だけではなくて、日常茶飯事を表現する砕けた会話調に於いても此の法則は通用する。

文(即ち *dass, weil, obgleich* その他の接続詞で始まる「従属文」或いは副文章と謂われている文)を直ちに句に直すことができるためには、句の先に附ける前置詞というものの詳しい機能を知って置くことが先決条件であるが、これが仲々大変で、むしろ前置詞の細かい用法ほどむつかしいものは無い。けれども、前置詞の用法は、必ずその凡てを知らねばならぬと云う訳ではない、既に自分の知っているもの、或いは感じでボンヤリ心得ているものだけでも、終始そう云う風にして、掘り返し掘り返して意識して行くことが出来よう。

詳しいことは、具体的に其の場合々に就いて研究して行くことにする。以下は、題文に挙げたような、極く簡単な場合の数例である。

[1] この記念碑を建設するには数ヶ月の労作を必要とした。
(Die Errichtung dieses Denkmals erheischte eine Arbeit von mehreren Monaten.----Zur Errichtung dieses Denkmals musste man monatelang daran arbeiten.)

[2] 急勾配の彎曲線を描きながら飛行機は一千米の高空にまで昇って行った。
(In steilen Kurven stieg das Flugzeug bis in die Höhe von tausend Meter.)

[3] 進んで死を選べば鬼神も仇する能わず。
(Ein freiwilliger Tod macht die bösen Geister unschädlich.)

[4] 外国新聞の報道するところを見るに、其処には本当の事や間違った事がごったに入り乱れている。
(Die Mitteilungen der ausländischen Presse mischen Wahres und Falsches durcheinander.----Die ausländischen Blätter melden Wahres und Falsches durcheinander.)

[5] 実業界が完全に沈滞を来たしているために事業がどうも思わしく捗らない。

(Infolge der vollständig darniederliegenden Wirtschaft will es mit den Unternehmungen gar nicht von der Stelle.)

一つ断って置くが、句を文に解き、文を句に結ぶという操作と「成句、熟語の適用」という事とは、問題がおのずと別である。後者は、たとえば上例第五番の **will es mit..... gar nicht von der Stelle** 等に現れたもので、これは必ずしも其の時々の判断だけでは出て来ない。やはりその物を具体的に知っていなければ駄目である。

動詞と名詞との関係

文を句に結び縮める時に最も重要な意義を持って来るのは、或る動詞に対して、其の動詞と丁度同じ意味になる名詞を発見することである。たとえば次のように。

etwas erfinden----die Erfindung von etwas.
etwas entdecken----die Entdeckung von etwas
etwas fehlt----das Fehlen von etwas
etwas bleibt aus----Das Ausbleiben von etwas
etwas versuchen----der Versuch von etwas
etwas genießen----der Genuss von etwas
etwas ruft----Der Ruf von etwas
jemand will----Der Wille von jemand.

動詞の語幹の儘の男性名詞(**der Versuch, der Beweis, der Genuss, der Ruf, der Gang, der Streit, der Aufstieg, der Verfall, etc.**)は必ずしもどの名詞にもあるとは限らないし、**Beweis** (証明)の際のように段々と **nomen actionis**[動作名詞]である事をやめて、具体的な事物そのものを指すようになって行く傾向があるから、これらを用いる際にはよほど語義を確かめた上でなければいけない。**Beweis** の際には **der Beweis durch.....**(.....による証明)ともまあ云えない事もないが、それよりもまず **die Beweisführung durch.....**と云った方が好い。そうかと云って **-ung** の語尾ならば随意的動詞を捉まえて名詞化する事ができると云うに、これも動詞によっては出来ない。たとえば **untersuchen**(調査する)は **Untersuchung** でよろしいが、**versuchen**(試みる)は **Versuchung** と云うと、「誘惑」「試練」という意の「試み」になって、普通の「試み」は **der Versuch** 又は **das Versuchen** でなければいけない。また **singen**(歌う)は **der Sing eines Liedes** は勿論不可、**die Singung** も云わない。高々 **das Singen**, 本当は **das Absingen eines Liedes** と云わなければいけないと云ったように、最も多く用いられる **-ung** の語尾と雖も多くの制限を持っている。

結局不定法の儘の中性名詞が一ばん一般的で、これならば凡ゆる動詞から造ることが出来るが、そうかと云って、**-ung** の語尾の形が現存するに拘わらず態々 **das ----en** の形を用いる場合には、多少何か訳がなくてはならない。たとえば **wohnen** の場合の如く、**Wohnung** の形はあるが、それは「家屋」を指して、「住むこと」は指さないと云ったような場合は別として、**-ung** 形のあるものはなるべく **-ung** 形を用い、**-ung** が無いものに限って **-en** 形を用いるべきである。(例 **das Essen, das Sprechen, das Liegen**)

前置詞はその儘用いる

以上に述べたのは、文章になっている際に「A が斯うした」「B を斯うした」と云ったような、「が」又は「を」の関係にあったものを二格関係に置き移す場合だけの話であった。話の関係上、それ以外の関係、即ち前置詞を介して結びつく動詞と名詞とを、名詞対名詞の関係に改める場合のことを一寸述べて置く。

[備考] 二格を用いる場合には従って意味が二種生ずる訳である。たとえば **die Lösung des Problems** は、問題「を」解決すること、**das Aufgehen des Problems** は、問題「が」解けること、等。

前置詞支配の動詞、たとえば **um etwas bitten, nach etwas fragen, auf etwas achten** 等は、前置詞をその儘移せばよい。**Die Bitte um eine Erklärung; Die Frage nach Grund und**

Ursache; Die Achtung auf diesen Punkt 等、その他もっと複雑な関係になる際と雖も、それらの関係は綿密に論理的に考えてやればよいわけである。たとえば Dass [od. ob] man die Probleme dadurch, dass man diese Methode anwendet, lösen kann
=Die Lösungsmöglichkeit der Probleme durch Anwendung dieser Methode.

再帰代名詞の始末法

再帰動詞の場合に、再帰代名詞をどうするかという問題が起こって来るが、これは頗る簡単で、大抵の場合は sich, mich 等を省いたものを用いればよろしい。但し-en に終わる中性名詞の場合だけは sich をも移すことになる。たとえば sich an etwas erinnern は、その儘を直ちに名詞的に用いると das Sich-Erinnern an etwas であるが、Erinnerung という形が存する以上は die Erinnerung an etwas と sich を省いてかまわない。sich を省いたからと云って決して「想起せしめること」乃至「催促すること」にはならない。sich auf etws einschränken (或物だけで間に合わす) と、etwas auf etwas einschränken (或物を或物に制限する) とは、名詞化せしめるとすれば、両方とも Einschränkung となつて、sich を Einschränkung seiner selbst 等の形でわざわざ附けることはなる可く避くるべきである。

副詞は形容詞に変わる

次に副詞は、それが直接動詞を修飾していた場合には、その動詞が名詞化すれば、特に断るまでもなく勿論形容詞となる。たとえば schnell laufen = schneller Lauf; unausgesetzt arbeiten
= unausgesetzte Arbeit

考え方の一例

問 題 私は、もし沈黙を破(brechen - 名詞 Bruch, m.)れば何か(irgendwelch)いやな(unangenehm)結果(Folgen, pl.)が起きはすまいか、ひょっとすると絶交する([Freundschaft] mit einem brechen)ようなことになりはすまいかと思って、それが恐ろしかった。(etwas nach sich ziehen; etwas im Gefolge haben; etwas herbeiführen 或る事を結果として伴う、或る事を誘致する、招来する)。

解 答 Ich fürchtete, dass der Bruch des Schweigens irgend welche unangenehme Folgen, vielleicht (od. ja sogar, ja selbst) einen Bruch der Freundschaft (od. einen Freundschaftsbruch) nach sich ziehen könnte.

例 題

1. 電気煖炉(elektrischer Ofen)は、場所を要する(bedürfen----名詞 Bedarf, m.)ことが少なく(gering)温度(Temperatur, f.)を保つ(innehalten----名詞 Innehaltung)ことが絶対確實(unbedingt genau)であるから大変よろしい(或る性質が或る物品を empfehlen する、又は或る性質が或る物品のために口を利く[für etwas sprechen]という。)

Der geringe Platzbedarf und die unbedingt genaue Innehaltung der Temperatur empfehlen die elektrischen Öfen (sprechen für elektrische Öfen).

2. 該工場(die ganze Anlage)は衛生上の(hygienisch)要求(Ansprüche, pl.)を完全に充足(glänzend erfüllen----名詞 Erfüllung)しているという点で現代に於けるミルクプラント経営(Molkereiwesen)の模範とも称すべきものである。(vorbildlich sein für; als Vorbild der modernen Molkereien angesehen werden können.)

Durch glänzende Erfüllung hygienischer Ansprüche ist die ganze Anlage vorbildlich für das moderne Molkereiwesen.

3. 何を煮る(kochen----名詞 das Kochen, der Kochvergang, das Kochverfahren, der Kochprozess)にも熱というものを使う(gebrauchen)。瓦斯竈を使う場合(瓦斯竈の場合)

には瓦斯を燃やす(verbrennen----名詞 Verbrennung) ことに依ってそれが得られるのである。

Zu jedem Kochprozess gebraucht man Wärme. Beim Gasofen erhält man sie [od. diese] durch die Verbrennung der Gase.

4. 該建築師(Arcgitekt, Baumeister)は国内国外(In- und Ausland)に於ける詳細なる(eingehend)技術上の(technisch)研究[の結果]を利用(benutzen----Benutzung)して、模範的な建築(Bau, m.)を設計(entwerfen)した。(「云々しつつ」の意の unter を用いよ)

Der Architekt hat unter Benutzung eingehender technischer Studien im In- und Ausland einen vorbildlichen Bau entworfen.

5. 書類(die Papiere, die Dokumente)を一瞥(auf etwas blicken----名詞 ein Blick auf etwas)するや否や、私はこれは文書偽造(Urkundenfälschung)だな(es handelt sich um etwas)と確信した。(Ich überzeuge mich ----etwas überzeugt mich)

Ein Blick auf die Papiere überzeugte mich, dass es sich hier um eine Urkundenfälschung handelt (oder handle).

6. 自分の計画が無残にも(jämmerlich)挫折したのを見る(sehen----名詞 Anblick, m.)と、もはや二度と(wiederholt)それを試み(versuchen----名詞 Versuch[Versuchung は「誘惑」の意])ようという考え(an etwas denken----名詞 der Gedanke an)が起こら(aufkommen)なかった。

Der Anblick seiner jämmerlich gescheiterten Pläne ließ ihm keinen Gedanken an einen wiederholten Versuch mehr aufkommen.

7. 埒内(Innenraum, m.)に、その時に(augenblicklich)用の無い(unbeschäftigt)審判官(Kampfrichter)や競技参加者(Aktive, pl.)がうろうろしている(mit etwas überfüllen 或物で満たす----名詞 Überfüllung mit)ために、その時々(jeweilig)形勢(Situation; Lage)を一目の下に集める(übersehen----名詞 Übersicht, f.)ことが困難(schwer----「困難にする」erschweren)である。

Die ständige Überfüllung im Innenraum mit unbeschäftigten Kampfrichtern und Aktiven erschwert die Übersicht der jeweiligen Situation.

8. 自由主義的な(liberalistisch)国家と雖も(auch; selbst; sogar)同一個所(an ein und demselben Orte)に二つの(zwei-er)同種の(gleichartig)店(Geschäft, n.)を許さない(nicht zulassen----名詞 Unzulässigkeit)という原則(Grundsatz, m.)を持する(an etwas III. halten)必要がある。

Auch ein liberalistischer Staat muss am Grundsatz der Unzulässigkeit zweier gleichartiger Geschäfte an ein und demselben Orte festhalten.

9. 現代の社会は同時に凡ゆる事柄(alles und jedes)に従事する(sich mit etwas beschäftigen----名詞 Beschäftigung mit etwas)ことではなく、活動(Tätigkeit)を只一つの範囲(Gebiet, n. Feld, n. Fach, n.)に制限(etw. auf etw. einschränken----名詞 Einschränkung einer Sache auf etw.)し集中(etw. auf etw. konzentrieren----名詞 Konzentrierung von etw. auf etw.)することを要求している。

Die moderne Gesellschaft verlangt nicht etwa die gleichzeitige Beschäftigung mit allem und jedem, sondern Einschränkung und Konzentrierung der Tätigkeit auf ein einziges Gebiet.

10. 発声映画の技術的基礎は、始め(ursprünglich)二つの別々の(verschieden)フィルム(Streifen, m. Bildstreifen, m.)に[auf と三格]撮(aufnehmen)られ、然る後ポジチブの複写(Positiv-Kopie, f.)で[auf と三格]結合(vereinigén)されて映写(vorführen)される音響と画

像 (Ton und Bild) とが同時に (gleichzeitig) 進展 (abrollen) することである。

Die technische Grundlage des Tonfilms ist das gleichzeitige Abrollen von Ton und Bild, die ursprünglich auf zwei verschiedenen Streifen aufgenommen und dann, auf einer Positive-Kopie vereinigt, vorgeführt werden.

[12] Es kommt zu einem Unfall.

偶発事件突発事件を報告するには此の Es kommt zu.....と云う形式が頻りに用いられる。云々「するに至った」或いは云々「を見るに至った」云々「し始めた」等の邦語を翻訳するには好適である。

オランダ・インドネシア間には遂に
一時的協定の成立を見るに至った。

Zwischen Holland und Indonesien kam es
endlich zu einem provisorischen Vertrag.

これは次に述べる zu etwas kommen なる形式と混同してはいけない。形式が非人称主語 es を伴う非人称的成句であることを銘記しておいて貰いたい。如何なる場合に用いるかを説明する代わりに、以下二三の例を附け加えて置く。zu の次に如何なる種類の名詞が来るかという点に注目する必要がある。

- [1] Gestern Abend bei der Kinovorführung kam es zu einem schweren Unfall.
(昨夜、映画を上映中一大惨事が突発した。)
- [2] Infolge einer Meinungsverschiedenheit kam es zwischen den beiden zu einem heftigen Wortstreit. (意見衝突の結果両人は激しく口論を始めた。)
- [3] Trotz der heiklen Spannung werde es hoffentlich zu keinem Krieg kommen.
(此の微妙なる緊張にも拘わらず、恐らくは開戦を見るには至らざるべしと。)
- [4] Mein Lieber, wenn wir so fortfahren, kommt es sicher zu einem Scandal!
(おい君、こんな調子でやっていると、今にきっと飛んだ恥を搔くようなことになるぜ。)
- [5] Wir werden sehen, mit der Zeit wird es sogar zu einer Verlobung kommen.
(今に見ろ、時の経つうちには婚約なんて事にならないとも限らないぜ。)

[備考] 此の語法は、人生、社会、史的過程等、要するに人間対人間の関係に於いて、単なる一個人の意志によってではなく、「自然的な結果」として、「偶然」に、或いは「物事の極く自然な成行として」何事かが偶発する時に用いるのであって、「.....云々するに至った」という日本語が必ず此の es kam zu.....で訳されるというのではない。たとえば「彼は長年の努力の結果遂に己が宿望を果たすに至った」等は、問題の中心が個人であると云う点で既に es kam zu.....が使われない(使うとすれば er kam zu.....を用いる)。es kam zu.....が用いられるのは、事件の原因が(又は行為の主体が)特定の個人でなく、数名の個人の間の関係の自然の成行き、或いは自然界社会の偶然等、何か個人の意志に関係のない所謂「客観的状況」に帰せられなければならないという点に注目せられたい。

例題

1. 首都の各所に於いて叛徒(die Aufständischen)と警官隊(Polizeitruppe; Polizeistreife)との間に激しき衝突を見るに至った。

In verschiedenen Teilen der Hauptstadt kam es zu heftigen Zusammenstößen zwischen den Aufständischen und den Polizeitruppen.

2. 会談中(Unterredung)両大使(Botschafter)の間に一時(zeitweilig)非常に心苦しき

(peinlich) 緊張を見るに至った。

Während der Unterredung kam es zwischen den beiden Botschaftern zeitweilig zu einer sehr peinlichen Spannung.

3. 演説 (Rede, f.) は始めのうち (zu Anfang) 極く順調 (regelmäßig) に行わ (abhalten) れたが、そのうち (bis を用いよ) 突如として数名の私服 (Polizeibeamte in Zivil) が会場 (Lokal, n.) に入り込み、それに引き続いて起こった (darauf entstehen) 混乱 (Tumult, m.) の最中数名の検挙 (Zwangsgestellung) を見るに至った。

Die Reden wurden zu Anfang ganz regelmäßig abgehalten, bis plötzlich einige Polizeibeamten in Zivil in das Lokal traten. Während des Tumultes, der darauf entstand, kam es zu einigen Zwangsgestellungen.

4. 動物という奴は或種の奇妙な (merkwürdig) 正義感 (Gerechtigkeitsgefühl, n.) を持っている。彼等のうちの一匹が突然何の理由もなく (ohne jeden Grund) 最良 (bevorzugen) にされるといって、かなり (recht) ひどい (böartig) 喧嘩 (Kämpfe, pl.) が起こることがある (können を用うべし)。

Die Tiere haben ein merkwürdiges Gerechtigkeitsgefühl. Wird eines von ihnen plötzlich ohne jeden Grund bevorzugt, so kann es zu recht böartigen Kämpfen kommen.

5. 審議 (Beratung) は深更 (die späten Abendstunden) にまで及んだ (sich in.....ziehen) が、それにも拘わらず二三の点 (Fragepunkt) が非常に (außerordentlich) 困難なるため、何等積極的 (positiv) なる決定 (Entscheidung) を見るに至らなかった。

Die Beratung zog sich bis in die späten Abendstunden und doch kam es wegen der außerordentlichen Schwierigkeit einiger Fragepunkte zu keiner positiven Entscheidung.

6. 昨夕五時頃市電 (Stadtbahn; Straßenbahn) 大曲停留場 (Haltestelle, f.) に於いて (an) 又々 (wieder einmal) 一大珍事 (schweres Unglück) が出態した。即ち、既に幾回となく衝突事故を惹起した (die schon so oft Zusammenstöße verursacht hat; die schon manche Zusammenstöße auf dem Gewissen hat) 例の (jener) 有名な (berühmt; berüchtigt) 曲がり角 (Straßenbiegung) に於いて (an) トラック (Lastauto; Lastkraftwagen) が市街電車 (Straßenbahnwagen) の横腹 (Flanke, f.) に突入 (rennen in.....) したのである。

Gestern Abend gegen fünf Uhr kam es an der Haltestelle der Straßenbahn Ohmagari wieder einmal zu einem schweren Unglück: ein Lastauto rannte an jener berüchtigten Straßenbiegung, die schon so viele Zusammenstöße auf dem Gewissen hat, einem Straßenbahnwagen in die Flanke.

[13] Ein Spielfilm gelangt zur öffentlichen Vorführung.

独逸語では動詞の受動形が非常に多く用いられるので、其の単調を避けんがために、おのずと受動形に相当する別形式が発達している。zu.....kommen, zu.....gelangen, sich ge- ~ sehen,finden 等がそれである。

問題の映画は、数箇所カットされたが、然しとにかく公開映写されることになった。

Der fragliche Film *gelangte* mit einigen Ausschnitten doch endlich *zur* öffentlichen Vorführung.

前項に述べた es kommen zu.....の形も、謂わば es wurde gestritten [es kam zu einem Streit], es wurde entschieden [es kam zu einer Entscheidung] 等、非人称的受動語法の換形であるが、これと同じものが、非人称主語以外の場合にも矢張り用いられる。適当な場合に適当に用いれば文体を整える上に非常に効果があるものである。

zu.....kommen, zu.....gelangen には、「遂に.....されるに至る」の意味が附随することは云うまでもない。

finden は、大抵の場合物主形容詞で主語を受けて、たとえば Die Regel findet ihre Anwendung (規則が適用される) 等と云う。勿論「.....を発見する」の意がおのずからこもっているわけで、なかなか発見できない適所を偶然発見する、という軽い傍意 (Nebensinn) が一寸含まれている。zu.....kommen; zu.....gelangen 等との差は極く微妙なところにある。

例 題

1. Brigitte Helm, Rudolf Forster, Matthias Wiemann, Lucie Englisch を主役とする (mit.....in den Hauptrollen) ウーファ社 (die Ufa) の発声映画 (Tonfilm, Klangfilm, m.) 「モンテ・クリスト伯爵夫人」は、四月二十二日金曜 Zoologischer Garten [略称 der Zoo] 脇 (an) のウーファ館 (Ufa-Palast, m.) に於いて上映される。

Der Tonfilm der Ufa "die Gräfin von Monte Christo", mit Brigitte Helm, Rudolf Forster, Matthias Wiemann und Lucie Englisch in den Hauptrollen, kommt Freitag, 22. April, im Ufa-Palast am Zoo zur Vorführung.

2. 昨日午後の会議に於いて政友会 (die Seiyukei; die Seiyu-Partei) によって提出 (einbringen) された、既に採用 (annehmen) されたる組閣 (Kabinettsbildung) の方式 (Methode, f.) に対する否認案 (Missbilligungsantrag, m.) は今日またもや討議 (Debatte, f.) される。

Der gestern in der Nachmittagssitzung von der Seiyu-Partei eingebrachte Missbilligungsantrag gegen die schon angenommene Methode der Kabinettsbildung, kommt heute wieder zur Debatte.

3. 軍縮会議の議長 (Präsident; Vorsitzender) がその開会の辞 (Eröffnungsrede) に於いて、協定草案以外 (außerhalb) に互って、会議に向かってなさるべき凡ての提議 (Vorschlag, m.) も亦検討 (besprechen) する可き旨を特に (ausdrücklich) 強調 (betonen, unterstreichen) したのは欣快 (erfreulich) である。

Es ist erfreulich, dass der Präsident der Abrüstungskonferenz in seiner Eröffnungsrede ausdrücklich betont hat, dass auch außerhalb des Konventionsentwurfs alle Vorschläge, die der Konferenz gemacht werden, zur Besprechung gelangen werden.

4. しかし乍ら、此の半ばいかがわしく (verdächtig) 半ば体裁の好い (anständig) やり口 (Treiben; Vorgehen) は大して長くは続か (vorhalten) なかった。半年も経つと、彼は程なく、とにかく機会あるごとに手を出す (zugreifen, wo man kann)、すなわち盗むという方法を選ぶの外なくなってしまった (sich auf etwas verwiesen [oder angewiesen] sehen)。

Jedoch hielt dieses halb verdächtige und halb anständige Treiben nicht lange vor, sondern nach einem halben Jahre sah er sich bald darauf verwiesen, zuzugreifen, wo er konnte, das heißt zu stehlen.

5. 私は、もし私がこの不始末 (Fehltritt, m.) に拘わらず矢張りなお彼の全幅 (voll) の信任 (Vertrauen, n.) に価する (wert, 二格支配) 者であることを証せんとするならば、どうしても私のやった事を全部正直に (ehrlich) 白状 (gestehen) しなければならない仕儀に立ち

至った (sich zu etwas gezwungen sehen)。

Ich sah mich, wollte ich beweisen, dass ich trotz meines Fehltrittes seines vollen Vertrauens würdig sei, dazu gezwungen, alles, was ich getan hatte, ehrlich zu gestehen.

6. 賃金値上げ (Lohnerhöhung) に関する商会 (Firma, f.) の幹部 (Direktion, f.) と労働者一同 (Arbeiterschaft) の代表者 (Vertreter) との間の交渉 (Verhandlung) は今夕六時近くに解決 (Abschluss, m.) を見た。

Die Verhandlung zwischen der Direktion der Firma und den Vertretern der Arbeiterschaft über die Lohnerhöhung hat heute Abend gegen sechs Uhr ihren Abschluss gefunden.

7. 第一次世界大戦後の所謂国際連盟 (Völkerbund, m.) なるものが、随分誠意ある努力をしたにも拘わらず (trotz aller ehrlichen Bemühungen) 恒久的な権威 (bleibend Macht) となる (erstarken) ことが出来なかったのは、主として其の当初の (anfänglich) 高遠な理想が一つとして実現 (seine Erfüllung finden) しなかった所に原因がある (Etwas liegt daran, dass.....)。

Wenn der sogenannte Völkerbund nach dem ersten Weltkriege trotz aller ehrlichen Bemühungen nicht zu einer bleibenden Macht erstarken konnte, so lag das hauptsächlich daran, dass keines seiner anfänglichen hohen Ideale seine Erfüllung fand.

8. 我々の時代に在っては、動ともすると (womöglich)、所謂人絹 (Kunstseide, f.) の方が木綿 (Baumwolle, f.) よりもずっと廉価に (billig) 製造 (verfertigen) され得るので、方々の国で人絹が木綿を市場から (aus) 駆逐 (verdrängen) してしまい、木綿布 (Baumwollstoffe, pl.) はもはや販路 (Absatz, Umsatz.----動詞 absetzen) を見出し得ないと云う危険に瀕して (in Gefahr sein) いる。

Da in unserer Zeit die sogenannte Kunstseide womöglich viel billiger verfertigt werden kann als die Baumwolle, so hat sie diese in verschiedenen Ländern aus dem Markte verdrängt und die Baumwollstoffe sind in Gefahr, keinen Absatz mehr zu finden,

[14] 自動詞の受動形と es の省略

一たい文章というものには、それが縦令[たとい]如何に形式的な無意味なもの----例えば es, man----であるにしろ、とにかく必ず何か主語(名詞又は代名詞の一格形)と云うものがなければならぬ筈であるのに、どうかするとそれが無いことがある。

門を叩け、さらば開かれん。 (マタイ伝第七章の七) Klopft an, so wird euch aufgetan.

その場合には、最も普通なるものが二つある。一つは例の「気持其の他の主観的現象を表わす非人称語法」(es dünkt mich; es dürstet mich; es verlangt mich nach etwas, etc) が、代名詞その他を先置して es が定動詞の次に来た時に行われる省略で (Mich dünkt----mich dünkt es は誤)、もう一つは、題文に掲げたような場合である。

これを理解するには、まずその文法的関係に対する予備知識が要る。前に、ドイツ語には受動形の言い廻しが非常に多いと云ったが、その中でも殊に多く用いられるのは、自動詞の受動形である。

Es wird gearbeitet = *man arbeitet.*

Es wird gescherzt = *man scherzt.*

Es wird geklingelt = *man klingelt.*

茲で自動詞というのは、決していわゆる補足語を取らないものという意味ではなく、もっと範囲を広くした、「四格」を要求しないものということである。だから、四格以外の補足語は、受動の場合も能動の場合もちっとも様子は変わらない。

Es wird ihm geschmeichelt = *man schmeichelt ihm.*
Es wird seiner gespottet = *man spottet seiner.*

[A]斯くの如き、自動詞の受動形が、es wird の語順にあつては es を要するが、それが、wird es の順になる関係に置かれると es を省くのが普通である。

Heute wird tüchtig gearbeitet.
Gescherzt wird jett nicht.
Vorhin wurde draußen geklingelt.

[B]それから、接続詞を先に立てた所謂従属文に於いても es は大抵の場合省略される。(es.....wird と es との間に過去分詞が這入る時)これは[A]の場合に比べると、[A]ほど絶対的ではないが、そうした方が文が軽快になるというわけである。

Wie gemeldet wird (報告によれば)
Dass hier gearbeitet wird (此处ではみながよく勉強するという事を、等)
Wenn einmal gejagt wird (狩りの催しでもあると)

es の省略であるが、此の語法の独作文に於ける意義は非常に重大であつて、大抵の場合主語のハッキリしない日本語をドイツ語に移そうという時には、往々にして此の語法がピタッとあてはまる事が多い。要するに「何か一つの動作が行われる」と云つたような場合、その動作を云い現わす動詞だけがわかつて名詞が判然としないといったような時には大抵此の語法で意味が通ずるのである。たとえば「戦いが行われる」という時に、Gefecht(戦闘)は知らないが fechten なら知っているとか、Mahlzeit(食事)は知らないが(Mahlzeit halten は尚更知らないから)その代わりに essen は知っていると言つたような際には、此の語法を用いることが出来、また man という主語があまり多すぎる時などには、此の語法で多少の変化を与えることも出来る。

例 題

1. 場内(Innenraum des Lokals)を一瞥(einen Blick in etw. werfen)すれば、数日来此处で絶え間なく(ununterbrochen)飲み、賭博し、楽器を弾き(musizieren)、舞踏し、そのみかは(ja sogar; ja selbst)大立ち廻り(raufen)までやっていたということが訳なく(ohne Mühe)わかる(erkennen; feststellen)。

Wenn man einen Blick in den Innenraum des Lokals wirft, so stellt man ohne Mühe fest, dass hier seit mehreren Tagen ununterbrochen getrunken, gespielt, musiziert, getanzt, ja sogar gerauft worden ist.

2. ソ連(die Sowjets, Sowjet-Union)は、経済、政治などに関する(sich auf etw. beziehen; etw. betreffen)凡ての事柄を軍事用語を以て云い表わす(bezeichnen)という極く自然な風習(Mode, f.)を創め(einführen)た。たとえば(da の先置)戦闘、攻撃、撃退(abschlagen)、勝利、損失(einbüßen)、進出(vorstößen)、奪回(zurücknehmen)が行われ、そして又しても(von neuem; immer wieder)叱咤激励(anfeuern)が行われる。

Die Sowjet-Union hat die sehr natürliche Mode eingeführt, alles, was sich auf Wirtschaft, Politik usw. bezieht, mit militärischen Ausdrücken zu bezeichnen. Da wird gekämpft und angegriffen, abgeschlagen und gesiegt, eingebüßt und vorgestoßen, zurückgenommen und von

neuem angefeuert.

3. 地下鉄会社 (Untergrundbahngesellschaft) と当該 (zuständig) 諸官庁 (Behörden) との間の商議 (Verhandlungen) は、今や、一時 (zeitweilig) 中絶 (unterbrochen sein) していた仕事の再開 (Wiederaufnahme) が期待 (mit etwas rechnen) し得るまでの程度 (so weitdass) に進捗 (gedeihen) した。

Die Verhandlungen zwischen der Untergrundbahngesellschaft und den zuständigen Behörden sind nunmehr so weit gediehen, dass mit der baldigen Wiederaufnahme der zeitweilig unterbrochenen Arbeit gerechnet werden kann.

4. 我々は名古屋支店 (Filiale Nagoya) の件に就き或る取引先 (Geschäftsfreund) に問い合わせた (sich bei jemandem erkundigen)。すると (da) 該支店はつい先頃 (vor kurzem) まではかなりの程度に (leidlich) 仕事をしていた (arbeiten) との報告 (mitteilen) があった。

Wir mussten uns über die Filiale Nagoya bei einem unserer Geschäftsfreunde erkundigen. Da wurde uns mitgeteilt, dass sie bis vor kurzem leidlich gearbeitet habe.

5. 強力政治 (stark regieren) が行われ、強硬なる干渉 (energisch eingreifen) が行われ、且つ威嚇的懲罰 (exemplarisch strafen) が課せられる所に於いては、国民の声は沈黙する。然し、支配権 (Herrschaft) が衰え始める (es geht bergab mit etwas) や否や、反掌の間に (im Handumdrehen) 喧きの声が聞かれ (murren) 煽動 (hetzen) が行われ、一揆 (putschen) が勃発し、双方とも (beiderseits) 暴力行動に訴える (zu Gewaltakten vorgehen) ということになる。

Wo stark regiert, energisch eingegriffen und exemplarisch gestraft wird, da schweigt die Stimme des Volks. Aber sobald es bergab geht mit der Herrschaft, da wird im Handumdrehen gemurrt, gehetzt, geputscht und beiderseits zu Gewaltakten vorgegangen.

6. 休憩時間 (Zwischenpause) に、既成政体 (das bestehende System) に対する闘争 (Kampf, m.) へと煽動 (auffordern) せる [関係代名詞は in denen] ビラ (Flugblatt, Flugzettel) が傍聴席 (Galerie; Tribüne) から投げ下ろされた。

Während einer der Zwischenpausen wurden von der Galerie aus Flugzettel heruntergeworfen, in denen zum Kampf gegen das bestehende System aufgefordert wurde.

[15] 代名詞を省いてはならぬ場合

日本人の悪い癖は、日本語から来る感じで、必ず無ければならぬ代名詞を理由なく省くことである。

彼は沢山書物を買込むが、果たして読むかどうかは甚だ疑問である。
Er kauft viel Bucher ein, aber es ist sehr zweifelhaft, ob er *sie* auch liest.

上例の *sie* を省いてしまうと、liest の意味が少し変わってきて、「抑々読書という仕事をするかどうかは」と云ったような意味になる。此処はそんな一般的な問題ではなく、その買った書物を片っ端から読み片づけることであるから、*sie* は必ず無ければならない。

以上は四格の代名詞であるが、三格の際でも同様である。「彼は自分の同胞を愛し且つ助ける」は Er liebt seine Kameraden und hilft ではない、hilft ihnen でなければいけない。これらの場合はすべて「書物を買込むが、果たしてそれらを読むかどうか.....」「自分の同輩を愛し且つ彼等を助ける.....」等と考えるように慣らすべきである。

然らば、動詞一つに就いて必ず名詞若しくは代名詞が附くかというに、そうではない。一個の文章と見るべき場合、たとえば *Er liebt und hasst sie zugleich.* と云ったような際には勿論四格を一つで間に合わせる事が出来る。一文の場合と二文の場合とは厳密に区別すべきである。

時とすると、動詞の部分が二つに分かれた一文と見なすべきか、それとも主語、定動詞を共通にした二文と見なすべきかが、一寸判断が附かない際も無いではない。

Der Kaiser hat heute Morgen Baron N. N. zu sich beschieden und [ihn?] mit der Kabinettsbildung beauftragt.

天皇は今朝 N. N. を男を宮中に召し、組閣の大命を下し給わった。

けれども、もはやこれ位二つの動作がはっきりと分かれて居ればやはり *ihn* を以て四格を繰り返した方がよい。

四格の目的語を省略する一般的な場合に就いては次項を見よ。

前置詞を補う補足語に関しても同様のことが云える。つまり *darauf, daran, davon, damit* 等を忘れてはいけないという事である。

Er nahm ein Buch aus dem Schrank und las darin.

一冊の本を開けてその一個所乃至数個所を読む、または「じっと見ている」という時には *ein Buch lesen* とは云わない。*in einem Buch lesen* というからである。故に上文はまさか「書架の中で読んだ」ということにはならない。

例 題

1. 古式の (Phytotherapie) 即ち薬草療法 (Kräuterbehandlung) を再び担ぎ上げよう (*wieder zu Ehren kommen lassen*) という呼び声 (Ruf, m.) が近来 (*in neuer Zeit*) 高まり (*laut werden*) つつある。たとえ必ずしもすべての患者が本当 (*recht*) に信頼 (*einer Sache [III] trauen*) するとは限らないにしても (*wenn auch*)。

In neuer Zeit wird der Ruf laut, die alte Phytotherapie, die Kräuterbehandlung, wieder zu Ehren kommen zu lassen, wenn auch nicht alle Kranken ihr recht trauen wollen.

2. ダイヤモンドは (Von Diamanten) 人類は現在のところ (*gegenwärtig*) 大約 (*rund*) 五十噸 [トン] (Tonne, f.) 即ち二億五千万カラット (Karat) 所有している。即ち (also) 地球住民 (Erbewohner) の一人一人 (*jeder*) に八分の一カラット、つまり凡そ (*etwa*) ガラス切りのダイヤ (Glasdiamant) を拵える (*etwas aus etwas machen*) に足るほどの分量 (*soviel, dass man.....könnte*) が相当する (*auf jeden kommt soundsoviel*) かないか位の程度である (*kaum*)。

Von Diamanten besitzt die Menschheit gegenwärtig rund [50] fünfzig Tonnen, d. h. [250] zwei Hundert fünfzig Millionen Karat. Auf jedem Erdbewohner kommt also kaum [1/8] ein Achtel Karat, etwa soviel, dass man daraus einen Glasdiamant machen könnte.

3. 巴里では、ガス、水、電流 (Strom, m. elektrischer Strom) 以外に (*neben*) 一つの特別な (*besonder*) 配給網 (Netz, n.) から圧搾空気 (Druckluft, f.) をも引く (*beziehen*) ことができ、受給者 (Abonnent) はエレベーター (Fahrstuhl, m.) の運転 (Antrieb, m.) に (*zu*) 用いたり (*verwenden*) 機械で動かす工場 (*mechanische Werkstätte, f.*) の原動力 (Kraftquelle) として用いたりすることができる。

In Paris kann man neben Gas, Wasser und Strom auch Druckluft aus einem besonderen Netz beziehen und die Abonnenten können sie zum Antrieb von Fahrstühlen, als Kraftquelle in

mechanischen Werkstätten verwenden.

4. おじいさんは今朝往来で通りがかりに(im Vorbeigehen)私に何か云おうとした。というのは私が彼の前に立った時に彼は立ちどまつ(stehen bleiben)たからである。私は気がついてはいたのだが、然し急いでいたので(in der Eile)気に留め(auf etwas achten)なかった。

Der gute Alte wollte mir heute Morgen auf der Straße im Vorbeigehen etwas sagen, denn er blieb stehen, als ich vor ihm stand. Ich habe es auch bemerkt, aber in der Eile habe ich nicht darauf geachtet.

5. 健康というものは一種変なものである(Es ist ein eigenes Ding [eine eigene Sache] um.....)。事実所有している間(solange)は、或いは偶然(Zufall, m.)によって、或いは己が同胞(Mitmenschen)の病気によって特に(ausdrücklich)思い出さしめられでもしない限りは(es sei denn, dass.....)決して意識(an etwas denken)しない。

Es ist ein eigenes Ding um die Gesundheit. Solange man sie wirklich besitzt, denkt man nie daran, es sei denn, dass man durch einen Zufall, durch die Krankheit seiner Mitmenschen ausdrücklich erinnert wird.

6. 私は私の計画していた(vorhabend)欧州行き(Europareise, f.)のことはもうとっくに(längst)考えなくなった。全然(völlig; vollständig)忘れてしまったとか、或いは(oder gar)断念し(auf etwas verzichten)たとか云うわけではない(nicht, dass.....hätte)。いや、どう致しまして(im Gegenteil)。それは今なお私の最も美しい夢である(ist.....geblieben)。然し争われないもので(Aber ach)美しい美しくないは別問題として(schön oder nicht)やはり(schließlich doch)夢でね。

Ich denke an meine vorhabende Europareise längst nicht mehr. Nicht, dass ich sie vollständig vergessen oder gar darauf verzichtet hätte. Nein, im Gegenteil. Sie ist jetzt immer noch mein schönster Traum geblieben. Aber ach, schön oder nicht, ein Traum ist ja schließlich doch ein Traum.

[16] 他動詞の絶対用法

元来四格名詞を伴う他動詞であったものが、名詞を省いて、(即ち相対的關係を脱して)、それ自身で一つの纏まった意味をなすようになった動詞がある。

私は家路を見失った。

1. Ich finde nicht mehr nach Hause.
2. Ich finde nicht mehr zurück.

Ich finde と云えば、常識で考えても den Weg とか、それとも mich とか何とか云いそうな筈であるのにそう云わないで、単に Ich finde と云う。こういう種類の動詞は、独文を読む際には、少し変だなと思いつつも、別に大して気に留めないのが学習者の普通の心理である。またそんな事を一々気に留め出した日には読んでいられない。そんな事を詮議立てするのは、「独文を読む際には」一種の道楽であろう。けれどもいざ自分で独文を作ろうという際には、そういう事がはっきりしていないと一歩も歩らない。

熟語というものは要するに何か理屈をつけて覚えるほど覚え易いものであるから、こうした方面から統一をつけて見るのも無意義ではなかろう。以下数例を挙げる。

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| [1] Der Weg führt nach der Stadt. | 道は市の方に通じている。 |
| [2] Er setzt über den Graben. | 彼は溝を飛び越える。 |
| [3] Er setzt mir nach. | 彼は私を追っ掛ける。 |

- | | |
|--|--------------------------|
| [4] Der Motor <i>fasst</i> endlich. | モーターが遂に利き(動き)始める。(自動車等で) |
| [5] Er <i>schlägt nach</i> der Mutter. | 彼は母の方に似ている。 |
| [6] Es <i>legt</i> bei ihm <i>an</i> . | 彼は肥満しかかっている。 |
| [7] Die Soldaten <i>legen an</i> . | 兵士達が照準する。 |
| [8] Die Gäste <i>legen ab</i> . | 来客が帽子、マント、手袋を脱ぐ。 |
| [9] Der Mantel <i>hält dicht</i> . | このマントは水が透らぬ。 |
| [10] Er <i>schickt nach</i> mir. | 彼が私を呼びに寄越す。 |
| [11] Ich <i>halte dafür</i> , dass..... | 私は.....であると信じます。 |
| [12] Er <i>hält zu</i> Hoover. | 彼はフーヴェー党である。 |
| [13] Der Dampfer <i>sticht in See</i> . | 汽船が解纜[かいらん]する。 |
| [14] Er <i>sprengt davon</i> . | 彼は馬に鞭打って去る。 |
| [15] Der Fall <i>berührt</i> tragisch. | 問題は悲惨な感じを与える。 |
| [16] Das Haus <i>lässt</i> wie ein Kasten. | 家は箱のような感じを与える。 |
| [17] Ich <i>breche mit ihm</i> . | 私は彼と交わりを絶つ。 |
| [18] Er <i>knüpft an</i> die Abrüstungsfrage <i>an</i> . | 彼は軍縮問題に話を結びつける。 |
| [19] Heute <i>halten wir frei</i> . | 今日は学校がない。 |
| [20] Das Kind <i>findet</i> schon selbst <i>zurück</i> . | 子供は大丈夫ひとりで家まで帰れる。 |

以上は成句熟語に関したものであるが、当然要求される四格を、時には其の場合々々で随意に省くこともある。但しそれは意味を無視してやってはいけない。前項の場合と混同しないように、次の諸点に注意すべきである。

具体的な場合を離れて
一般的に言う際

まず人間について考えると、たとえば具体的な一人の人間に関しての話をしている最中には、人の四格三格その他を必要とする動詞が出て来るたびに、たとえ日本文の方には書いてなくても、独文の方では一つ一つ繰り返す可きで

ある、たとえば「彼が私の家へやって来るたびに私は彼と話をし、彼にお茶を飲ませ、彼に小遣い金をやり、彼を訓戒し云々」と云ったように考えなければならない。それはもはや前項に於いて充分会得されたことと思うが、次に練習する場合と対照して考えると、意味の方からなおもはっきりして来るであろう。

具体的人物を捉えて云うのではなく、一般に「吾人を」とか「人間を」とか云う意味の際には、勿論 *uns* 又は *die Menschen* 又は *einen* [man の四格] を用いても好いのであるが、そういう場合にはまた全然四格を省くことが出来るのである。

成功は吾人を幸福にするが、失敗は吾人を憂鬱にする。

1. Das Gelingen macht *die Menschen* glücklich, das Misslingen verstimmt.
2. Das Gelingen macht *uns* glücklich, das Misslingen verstimmt.
3. Das Gelingen macht *einen* glücklich, das Misslingen verstimmt.
4. Das Gelingen macht glücklich, das Misslingen verstimmt.

どれが一番好いかと云うに、格言的なものとしては第四が一番好い。座談等では第三の方が砕けていて好い。

日本語でよく云われる「人を馬鹿にしてやがる」「まるで人を喰ってる」「人が迷惑だ」等の「人」というのも或種の一般化であるが、これらはむしろ *einen*, *einem* 等で云った方がよろしい。Wofür sieht er *einen an*? (人を何と思ってやがる) 等。何故というに、これらは、一般的とはいふものの「おれ」という意味が一寸 *mitschwingen* (同時にひびく) するから、やはり具体的な場合に属し、従って前項の法則の方で感じを裁くことになる

からである。いずれにしても代名詞を入れるか入れないかの問題の裏面に動くドイツ語の語感の法則とその精神とを理解するのが先決問題である。

次に、人ではなく、物事に関しても、これと同じ事が云える。

遠くから見ると物は角が取れて美しく見えるものだ。

Die Entfernung mildert und verschönt.

わざわざ四格を入れるとすれば *die Dinge* または *alles* であろう。

三格四格の両方を要求するものも同様で、日本語でたとえば「どうせ人に物を呉れるなら.....」とか云う際の「人に」「物を」は、共に省いて動詞のみを絶対用法で用いる方が気が利くことがある。勿論砕けた口調では *Dinge*, *Sachen* 等(此の際は冠詞なく)を入れても悪くはない。

与うるは受くるよりも幸福なり。

使徒行伝 20, 35.

Geben ist seliger denn nehmen.

日本語で既に「与うるは受くるよりも.....」と云ってあれば困難はないが、「人に物をやるのは.....」などと云ってあるときには初学者の常として、きっと *den Menschen Dinge zu geben* などと云いたくなるものだから、和文独訳の際には重要な注意である。

最後に、動詞のみに専ら注意を向けんとする際には、わざと四格を省くことが出来る。

象徴的な云い方という奴は、事物を「名指す」というよりはむしろ「髣髴せしめる」のでなければならぬ。

Die symbolische Sprache soll mehr erwecken als bezeichnen.

つまり動詞を強調し下線して、其の全意義を力強く感じさせる為の手段として、わざわざ四格を省くのである。名詞ならば、わざわざ冠詞を省く場合 (*Liebe verlangt Ausschließlichkeit* 恋は独占を欲す)に該当するわけである。

例 題

1. 我々が車から降りて、冗談を云ったり笑ったりしながら (*unter Scherz und Lachen*) 玄関の間 (*Vorzimmer, n.*) で帽子や外套を脱いでいると、客間から来客中の一人が出て来て、私が脱いでいるのに手を貸し (*einem beim Ablegen behilflich sein*) ながら (*indem*) 私の妹と会話を交えるきっかけを作った (会話のきっかけを作る = *mit einem anknüpfen*)。

Während wir aus dem Wagen abgestiegen waren und unter Scherz und Lachen im Vorzimmer ablegten, trat einer der Gäste aus dem Gastzimmer und, indem er mir beim Ablegen behilflich war, knüpfte er mit meiner Schwester an.

2. 各国 (*alle Nationen*) の政治家がみな斯くの如き平和的基礎 (*Friedensgrundlage, f.*) に復帰する (*zu.....zurückfinden*) ことができたならば、人類の将来は政治的にも経済的にも安全 (*gesichert*) なものとなろう。

Gelingt es den Staatsmännern aller Nationen, zu dieser Friedensgrundlage zurückzufinden, so ist die Zukunft der Menschheit politisch und wirtschaftlich gesichert.

3. 店員(Gehilfe, m. Handelsgehilfe, m.)は、相手が大いに買って呉れそうな(kauf lustig sein; in der Laune des Einkaufens sein)若夫婦(ein junges Paar)だ(相手は云々だ=einen soundsotanen Menschen vor sich haben; [es] mit einem soundsotanen Menschen zu tun haben)と見て取って(begreifen, dass.....)巧みに(verstehen, soundso zu tun)自分の店(Haus, n. Laden, m.)の品物(Waren, Schätze)に向かって注意を向け(auf etwas aufmerksam machen)た。

Der Gehilfe begriff, dass er ein junges Paar vor sich hatte, das in der Laune des Einkaufens war, und verstand es, auf die Schätze seines Hauses aufmerksam zu machen.

4. 此の頃(um diese Zeit)彼は市立図書館(Stadtbibliothek, f.)の閲覧室(Lesezimmer)で、大いに我意を得た英字雑誌(Zeitschrift, f.)を発見した。彼はその一記事(Artikel, m.)に結びつけて、一般民衆教育(allgemeine Volksbildung, f.)という彼の思想(Gedanke, m.)になお筆を染めた(weiter ausführen)。

Um diese Zeit sah er im Lesezimmer der Stadtbibliothek eine englische Zeitschrift, die ihm gefiel. Er knüpfte an einen ihrer Artikel an und führte den Gedanken der allgemeinen Volksbildung weiter aus.

5. 喧嘩好き(Zanksucht, f.)と強情(Rechthaberei, f.)とは大抵の場合(meistens)喧嘩好き(zänisch)であり強情(rechthaberisch)である当人(ebenderselbe, der.....)の弱み(Schwäche, f. wunde Stelle, f.)にその原因を求む(auf etwas zurückführen)可きである。人は往々にして己れが攻撃される隙がある(angreifbar sein)ということのを隠さんとして攻撃し且つ自分に敵を作るものである。

Zanksucht und Rechthaberei ist meistens auf die Schwäche ebendesselben, der zänisch und rechthaberisch ist, zurückzuführen. Oft greift man an und macht sich einen Feind, um zu verbergen, dass man angreifbar ist.

6. 船酔い(Seekrankheit)に対する予防手段(Mittel, n.; Schutzmittel, n.)が千と一通りある。そんなに数が多いということがとりもなおさずそれらの中のどれも有効で(helfen)ないという最良の証明である。

Es gibt Tausend und ein Mittel gegen Seekrankheit. Ihre große Zahl ist der beste Beweis, dass keines von ihnen hilft.

[17] 結果の zu

リンドバーグ二世の行衛搜索は段々と大騒ぎになって遂には一種の民衆運動と化するに至った。[後註]

Die Suche nach dem Baby Lindberghs ist schließlich zu einer Volksbewegung herangewachsen.

「云々して何とかになる」又は「云々して何とかにする」という日本語は大抵の場合「云々して」に相当する動詞を zu と共に用いて表現することができる。

zu Regeln stempeln	金科玉条だと折り紙を附ける。
zu Brei schlagen	ぶつぶぶしてお粥にしてしまう。
zu einer Riesensumme anschwellen	膨張して以て巨額となる。
zu einer Jungfrau erblühen	咲き淀んで乙女となる。
sich zum Anführer aufwerfen	打って出て以て首領となる。

sich zu einem See vereinigen	合流して以て湖となる。
sich zu einem Kapital anhäufen	積んで資本を成す。
zu einem Klumpen zusammenschmelzen	融けて一塊となる。
sich zu einem Verein zusammentun	寄り集まって会を作る。
sich zu einem Ganzen gestalten	形作られて一つの纏まったものとなる。

以上の形式は、うっかりすると、和文独訳の際にも一寸誤解されることがある。たとえば **zu einem Klumpen zusammenschmelzen** は、決して先ず一つの **Klumpen** が始めから存在していて、そこへ別な物が融けて附着するという意味ではなく、**zu** の次に来る名詞の示す概念は、動詞によって示された動作が行われた後に始めて生まれ出る「結果」である。(次項の「結果の in」参照)

[註]：リンドバーク(大西洋の横断飛行をした最初の米人)が愛児を誘拐された事件が此の記事を書いた当時世界の話題だったのでこんな文例が選ばれたわけである。

例 題

1. 私はただ主な点のみに就いて報告しようと思う。個々の点(**die Einzelheiten**)は割愛(**auslassen**)することにする、そうでないと(**sonst**)私の手紙は書物程の大きさに膨れ上がって(**anschwellen**)しまうだろうから。

Ich will nur von dem wesentlichen Punkt berichten. Die Einzelheiten lasse ich aus, weil sonst mein Brief zu einem Buch anschwellen würde.

2. 災禍は彼に向かって教育的(**erzieherisch**)な影響を及ぼし(**auf jn. einen Einfluss ausüben**)たのであった。彼はもはや酒飲みではなかった。彼は最近数ヶ月の中に自己を陶冶(**sich herausbilden**)して遂に一人の模範的(**mustergültig, vorbildlich**)な良人(**Ehemann**)になったのであった。

Das Unglück hatte auf ihn einen erzieherischen Einfluss ausgeübt: Jetzt war er kein Trinker mehr; auch zu einem mustergültigen Ehemann hatte er sich in diesen letzten Monaten herausgebildet.

3. 幼少な生徒達も大人達(**die Erwachsenen**)に負けを取(**hinter jm. zurückbleiben**)ろうと欲しなかったので、彼等は結束(**sich zusammenschließen**)して愛国少年連盟(**Bund der Patriotischen Jugend**)を作った。

Auch die kleinen Schüler wollten nicht hinter den Erwachsenen zurückbleiben, und sie schlossen sich zu einem Bund der Patriotischen Jugend zusammen.

4. いやはや、丁度(**gerade**)お嬢様のような(**wo das Fräulein steht**)お年頃には一寸した(**leicht**)お咳(**Husten, m.**)でももう(**schon**)うっかりはできません(**kann bedenklich sein**)。注意(**beachten**)しませぬと、大変厄介なこと(**schlimme Dinge**)にならぬとも限りませぬ(**können**)からな。

Nein, nein! Gerade in den Jahren, wo das Fräulein steht, kann ein leichter Husten schon bedenklich sein, der, wenn er nicht beachtet wird, sich zu schlimmen Dingen gestaltet.

5. 肖像画(**Porträt, n.**)というものは、それが原物(**Original, n.**)を凡ての黒子(**Warze, f.**)と雀斑[そばかす](**Sommersprossen, pl.**)と共に模写する(**abschreiben**)ことなく、むしろ精神的に(**geistig**)意義ある(**bedeutend**)相(**Züge, pl.**)を統一(**vereinen**)して一つの表現的(**ausdrucksvoll**)なる総体(**ein Ganzes**)となして始めて(**nur dann, wenn.....**)芸術品である。

Ein Porträt ist nur dann ein Kunstwerk, wenn es das Original nicht mit allen Warzen und Sommersprossen nicht abschreibt, sondern die geistig bedeutenden Züge zu einem ausdrucksvollen Ganzes vereint.

6. ブールヴァール[大通り](Boulevard, m. pl. --s.)を(auf III.)若い婦人たちが、足と合生して(verwachsen)羚羊[カモシカ](Gazelle, f.)の蹄(Huf, m.)の如くに見える靴の踵(Absatz, m.)をコトコトと鳴らし(klappern)ながら通って行く(dahingehen)ところは(wenn, so.....)まるで(es ist, als ob.....; es ist, als.....)ニンフ(Nymphe, f.)が歩いて行く(einherschreiten)ようであった。

Wenn auf dem Boulevard die jungen Damen mit klappernden Absätzen dahingehen, die mit dem Fuß zum Huf einer Gazelle verwachsen, so war es, als schritten Nymphen einher.

7. 元来(sonst)色らしい性質を少しも帯びていない(nichts von..... an sich haben)日光(Sonnenstrahlen, pl.)が、いわゆるプリズム(Prisma, n.)によって分解(auseinanderlegen)されて七色(siebenfarbig)の帯(Band, n.)となる。

Die Sonnenstrahlen, die sonst nichts von Farbe an sich zu haben scheinen, werden durch das sogenannte Prisma zu einem siebenfarbigen Band auseinandergelegt.

8. 民族(Nation)の利害(Interessen)があらゆる政治的行動(Aktion)の最高原則(das oberste Prinzip)にまで高め(erheben)られるということ、人はそれを国粹主義(Nationalismus)と呼び、そしてそれがあまり極端になって来ると(man geht mit etwas zu weit)排他思想(Chauvinismus, m.)と呼ぶ。

Wenn die Interessen einer Nation zum obersten Prinzip aller politischen Aktionen erheben werden, so nennt man das Nationalismus, und wenn es damit zu weit geht, Chauvinismus.

[18] 結果の in

前項の zu と殆ど全然同じと云っても好いような使い方が in にもある。

あっちこっちで罷業騒ぎをしていたのが、
段々と総罷業に移って行く。

Die einzelnen Arbeitseinstellungen gehen in
einen Gesamtstreik über.

前項の zu と此の項の in との間に、判然たる境界を画することはむづかしい。大体に於いて次のような特徴で使い分けると思えば好い。

[1] in は、変化する「経過」と「移り行き」とを漸進的過程として表現するが、zu は、移り変わって到達した最後の状態に主として注目せしめる。

[2] in は到達の目的がはっきりしないで、時には無限なることを想わせるが、zu は、到達すべきところに到達すればそれでハッキリと形がつくことを思わせる。

但し此の区別は in 又は zu その者の持っている概念であって、動詞そのものをも共に含め、且つ動詞の意味そのものを主にして考えると、in も zu も共に結果を指すのであって、語句総体の用法としては別に大した区別がない。むしろ動詞に就いて、それが慣習としていずれを自然に要求するかを辞書について検べるのが実用向きである。また in でも zu でもよろしい場合が多い。(sich in [zu] etwas ausarten 云々に墮する、悪化する)。

inの方は必ず四格支配であることに注意。

例題

1. 彼はもう戦争には慣れっこになってしまっていた(sich an **IV.** gewöhnen)。しかしそう云えば他の者だってそうだった(Aber dies ging auch andern so)。何故というに、時と共に、最初の数ヶ月の不規則的な恐ろしさ(Grauen, n.)は、多くのもの(mancher)にはもはや感ぜられない(auffallen)ような或種の規則的な恐ろしさに変わつ(sich verwandeln)たのであったから。

Er hatte sich an den Krieg gewöhnt. Aber dies ging auch andern so, denn mit der Zeit verwandelte sich das unregelmäßige Grauen der ersten Monate in ein gleichmäßiges Grauen, das manchen gar nicht mehr auffiel.

2. 二個の真に相反する事柄(Gegensatz, m.)の間には未来永劫に亘って(in alle Ewigkeit)如何なる調停(Vermittlung)も可能ではない。真の調停は対立が解けて(Auflösung, f.)第三の「より高きもの」と化することである。

Zwischen zwei wahrhaften Gegensätzen ist in alle Ewigkeit keine Vermittlung möglich. Die wahre Vermittlung ist die Auflösung der Gegensätze in ein höheres Drittes.

3. 遊んでいる(feiern)労働者を再び有意義なる(sinnvoll)職業(Beschäftigung, f.)に就かしめ(in **IV.** bringen)、彼に今まで(bisher)よりも少し多くの購買力(Kaufkraft)を与えることが出来るようにな(es gelingt einem)れば、殆ど既に生産一般(Produktion überhaupt)に対する恐怖(Angst vor **III.**)に一転(umschlagen)しつつあるところの農業的生産過剰(agrarisches Überprodukt)に対する恐怖こそは正に(wahrlich)謂われなきもの(unberechtigt)と謂う可しである。

Wenn es gelingt, den feiernden Arbeiter wieder in eine sinnvolle Beschäftigung zu bringen, ihm etwas mehr Kaufkraft als bisher zu geben, dann ist jene Angst vor der agrarischen Überproduktion, die fast schon in eine Angst vor der Produktion überhaupt umzuschlagen droht, wahrlich unberechtigt.

4. 深海(große Meerestiefen)に於ける作業を可能ならしめ(ermöglichen)た最初の装甲潜水衣(Panzertaucher, m.)はキール(Kiel)に於いて建造された。該者は次へ次へと(immer wieder)改造せられ、漸次に(nur allmählich)今日の潜水装具(Taucherrüstung)に移り変わ(übergehen)った。

Der erste Panzertaucher, der die Arbeit in großen Meerestiefen ermöglichte, wurde in Kiel gebaut. Dieser wurde immer wieder umgestaltet und ging nur allmählich in die heutige Taucherrüstung über.

5. 既に最初の数日間に於いて彼が全然(völlig, gänzlich)勤務に(für den Dienst)堪えざる者であること(Untauglichkeit)がわかった(sich zeigen)。ところが彼の上役(Vorgesetzter)達の彼に対する(mit dem.....ihn.....verfolgten)嘲笑(Hohn, m.)は、此の不堪能性をば狂気の沙汰(das Aberwitzige; das Irrsinnige; das Verrückte; das Wahnsinnige)にまでも昂じさせ(steigern)てしまった。

Schon in den ersten Tagen zeigte sich seine völlige Untauglichkeit für den Dienst. Der Hohn aber, mit dem ihn seine Vorsitzende verfolgten, steigerte diese Untauglichkeit ins Aberwitzige.

6. 経済的、というよりは寧ろ(oder besser)財政的紊乱[びんらん](Unordnung, f.)の最初の徴候(Anzeichen, n.)が現われそめ(zutage treten; sich melden)たのは(es war....., als)

大戦の直後 (unmittelbar nach) であった。それが即ち所謂インフレーションである (war)。このインフレーションが時と共に一般的経済危機とまで悪化 (ausarten) したのである。

Es war unmittelbar nach dem Weltkrieg, als das erste Anzeichen der wirtschaftlichen, oder besser finanziellen Unordnung zutage trat. Das war die sogenannte Inflation. Diese Inflation artete mit der Zeit in eine allgemeine Wirtschaftskrise aus.

[19] Identitäts-in

A = B, 即ち A が B であるという論理関係を前置詞を以て云い表すときに in を用いる筋道がある。同一性 (Identität) を表すから、仮に Identität の in と呼んでおく。

一個の人間の中に於いて人間が踏み躪 [にじ] られたならば、それは渠 [きょ] の中に於いて神が踏み躪られたのである。

Wenn in einem Menschen der Mensch zertreten wird,
so wird ach Gott in ihm zertreten.

こういう in は、訳する時には勿論「の中に」「に於いて」でも充分に分かる。日本語が抑々そう云う風になって来ているのだから。ところが和文を独訳する時には仲々この in が使いこなせない。たとえば、「あなたは此の市の市長さんでございますか？」というのを Sind Sie der Bürgermeister dieser Stadt? と云う以外に

- [1] *Sehe ich in Ihnen den Bürgermeister dieser Stadt?*
- [2] *Habe ich die Ehre, in Ihnen den Bürgermeister dieser Stadt zu begrüßen?*
- [3] *Bin ich im Irrtum, wenn ich in Ihnen den Bürgermeister dieser Stadt erkenne?*

なぞと言い廻すためには、in と sehen, erblicken, begrüßen, erkennen 等との用法を知って、この型を型としてよほどよく知って置く必要がある。

in は勿論「中」という原意を保存している。即ち表面 (außen) は未知の人で、よく見たら内部 (innen) は市長さんであったという概念機構に注意されたい。

in と共に用いる動詞は、一ばんよく用いられるのは今挙げた sehen, erblicken, grüßen, begrüßen, erkennen, wiedererkennen 等、「認識、看取、透察」に関するものであるが、要するに A = B という関係を基礎にして、結局あらゆる動詞が使われるわけである。それは題文の zertreten でもわかる。

[備考] in の代わりに、mit を用いることも稀ではない。たとえば Mit [又は in] ihm ist einer der größten Staatsmänner dahingegangen.

例 題

1. 大抵の人間、殊に (zumal) 無教育な (ungebildet) 人々は、何でも白い上に黒く (schwarz auf weiß) 印刷してある (gedruckt stehen) ものに対して或種の説明し難い (unerklärlich) 尊敬の念 (Achtung vor) を持っている。彼等は、印刷された言葉とその下手人 (Urheber, m.) とを目して普通人以上 (höher) の存在だと思っている (erblicken; sehen)。

Die meisten Menschen, zumal die ungebildeten Leute, haben eine unerklärliche Achtung vor allem, was schwarz auf weiß gedruckt steht. Sie erblicken im gedruckten Worte und dessen Urhebern höhere Wesenheiten.

2. 太陽の光線 (Lichtstrahlen, pl.) がやっと (erst) 六時間かかって (in) 達する

(zu.....gelangen) ことができるという、最も太陽から遠い(sonnenfern) 遊星が、1930 年に、冥王星(der Planet Pluto)として(此の「として」に Identitäts-in を用いることができる)発見された。

Der sonnenfernste Planet, zu dem die Lichtstrahlen der Sonne erst in sechs Stunden gelangen können, ist im Jahre 1930 im Planeten Pluto entdeckt worden.

3. 著者(Verfasser)はその序言(Vorrede, f. Vorwort, n.)に於いて、彼は己が全二巻の(zweibändig)小説の人物に於いて、単に(lediglich)至る処に遭遇(antreffen)することの出来るタイプ(Typ, m.)を描いた(schildern)に過ぎないのであって、決して一定の個人(Individuum, n.)なぞを描いたのではないと声明(erklären)している。

Der Verfasser erklärt in seiner Vorrede, dass er in den Personen seines zweibändigen Romans lediglich Typen geschildert habe, die überall anzutreffen seien, nicht etwa bestimmte Individuen.

4. 修辞学(Rhetorik)を以て単に空虚(leer)なる言葉の遊戯(Wortmacherei, f.)だと断ずる(erkennen wollen)ところの例の(jener)中傷的な(verleumderisch)修辞学の概念は仮に問題にしない(von etwas absehen)とすれば、修辞学に関する概念の下に二種の概念(zweierlei)を考える(unter etw. etwas verstehen)ことができる。それは談る(reden)術と、書く術とである。

Wenn man von jenem verleumderischen Begriff der Rethorik absieht, der in ihr nur leere Wortmacherei erkennen will, so kann man unter Rethorik zweierlei verstehen: die Kunst zu reden und die Kunst zu schreiben.

5. 私が交渉を持つようになった(mit einem zu tun bekommen)企業家(Unternehmer)は金を何よりも以上に(über alles)愛し、私をば自分自身の利益になるごとく(zu seinem eigenen Vorteil)使いこなす(gebrauchen)ことのできそうな人間だと見た(sehen; erblicken)のであった。

Der Unternehmer, mit dem ich zu tun bekam, war ein Mann, der das Geld über alles liebte und in mir nur einen Menschen sah, den er zu seinem eigenen Vorteil dienstbar machen könnte.

6. 私は或る秘密の計画を抱いていまして(mit etw. umgehen)支持(Unterstützung)を必要とします(brauchen)。それ故あなたという私の最も忠実な(getreu)味方(Anhänger)の一人と知己になり得たことを非常にうれしく思います。

Ich gehe mit einem geheimen Plan um und brauche Unterstützung. Ich freue mich also sehr, in Ihnen einen meiner getreuesten Anhänger kennengelernt zu haben.

[20] 局 限 化 の in

日本語は変な国語で、「が」もしくは「は」が略西洋語の「主語」なるものに相当する概念を表わすのに用いられるとすれば、時とすると-----ではない、屢々[しばしば]-----簡単な一文章中に、一般的な主語(即ち広い概念を表わす主語)と、特殊な主語(前に立つ主語の意味する範囲を局限して概念を特殊化し、何か一つのハッキリした所に注意を向けるための主語)と、二つの主語が出来るようなことがある。「彼は家が焼けた」「この魚は腹わたが美味しい」「日本は金が無い」「僕は今日は頭が痛い(これは三個!)」等々

独裁政治は其の根本精神が反文化的である。

Die Diktatur ist in ihrem Prinzip kulturfeindlich.

そういう場合に略相当するのがドイツ語の *in* である。此の *in* の特徴は大体次の如くである。

[1] 題例の *in ihrem Prinzip* でもわかる通り、*ihrem* などと、大抵の場合は主語をその儘繰り返す物主形容詞が這入っている。たとえ這入っていないことがあっても、入れようと思えば大抵入れることができる。これが此の *in* の用法のはっきりした特徴である。「彼はその量見に於いてプチブル的である」(*Er ist in seiner Gesinnung kleinbürgerlich*) 「彼の論述はその出発点が[又は「に於いて」]まちがっている」(*Seine Ausführung ist in ihrem Ausgangspunkt verfehlt*) 等々。

[2] 必ずしも主語ばかりではない、四格名詞に就いても同様のことが有り得る。
Ich halte ihn für kleinbürgerlich in seiner Gesinnung.
Man erkannte seine Ausführung als in ihrem Ausgangspunkt verfehlt.

[3] 日本語の表現としては、たとえば題例の如く「独裁政治は其の根本精神『が』反文化的である」と、「が」等で表現してあるが、多少翻訳調の日本語では *in* をそのまま「に於いて」と表現してあるのが普通である。日本語そのものの表現法がどうであるかに拘わらず、その意味の型に注目することが必要である。

[4] *in* の次に置き得る名詞は、先に立つ主語、又は四格名詞の概念をいずれかの一部分に局限するような特殊化的な名詞(*Seine Behauptung ist in ihrem Ausgangspunkt.....*) 又は、その一性質(*Wir haben die Weltkrise in ihrer ganzen Schärfe erfahren.*) に限る。

[5] なお意味の関係として注意すべきは、たとえば題例に於いて、*Die Diktatur* なる句と、*in ihrem Prinzip* なる句との関係が、二格関係、すなわち *Das Prinzip der Diktatur ist kulturfeindlich* と考えることが出来ることである。反対に、たとえば、「此の自動車の速力は云々.....」というのを「此の自動車はその速力に於いて云々.....」と考えることができるわけである。こうした関係が存するが故に、第一の注意に於いて述べた如く、大抵の場合、主語、又は四格名詞を代表する物主形容詞を附けることになるわけである。

例 題

1. ヘーゲルの合理主義 (*Rationalismus*) は南欧 (*südeuropäisch*) 諸民族のそれ (*derjenige*) とは根本的に (*gründlich*) 異なっている。それはその最奥の (*innerst*) 本質に於いてドイツ的、すなわち物力論的 (*dynamistisch*) であり活動論的 (*aktivistisch*) である。

Der Hegelsche Rationalismus ist gründlich verschieden von demjenigen der südeuropäischen Völker, er ist in seinem innersten Wesen deutsch, d. h. dynamistisch und aktivistisch.

2. もはや一人の味方も残存せず、凡ての遁路 (*Ausweg*) が断 (*abschneiden*) たれてしまった只今となって (*nun* と従属文、又は *jetzt, wo.....*) 彼が墮っている (*in der er sich befand; in die er geraten war*) 苦境 (*Notlage, f.*) が如何に苛烈なものであるか (*ihre ganze Schärfe*) が明らかになってきた。

Jetzt, wo ihm kein einziger Freund mehr blieb und alle Auswege abgeschnitten waren, wurde ihm die Notlage, in der er sich befand, in ihrer ganzen Schärfe klar.

3. 試みに吾人が此の立場からして (*von.....aus*) 社会問題 (*soziale Frage*) を観察するとすれば、人間の労働並びに (*samt; mit*) その意義 (*Bedeutung*) は、その最も偉大なる (*großartig; großzügig*) ディメンション (*Dimensionen; Ausmessungen*) に於いて眼前に立ち現われる (*vor Augen treten*) のである。

Betrachten wir von diesem Standpunkte aus die soziale Frage, so tritt uns die menschliche Arbeit samt ihrer Bedeutung in ihren großartigsten Dimensionen vor Augen.

4. 沙翁[さおう]は人間の本性総体に互って(die ganze Menschennatur)、それを凡ての方向に向かって(nach allen Richtungen hin)、且つ凡ての深みと高さとに於いて、既に(bereits)表現し尽くし(erschöpfen)てしまった結果(so dass)、後世(Nachwelt)にとってはもはや何一つなすべきことが残(übrig bleiben)っていないと云って好い。

Shakespeare hat die ganze Menschennatur nach allen Richtungen hin und in allen Tiefen und Höhen bereits erschöpft, so dass für die Nachwelt fast nichts mehr zu tun übrigbleibt.

5. 私は別にインフレ、農地政策(Agrarpolitik)、食糧問題(Lebensmittelfrage)に関して此の政治家(Politiker)によって述べ(äußern)られた所見(Ansichten)をその凡ての点に於いて是認する(teilen[分かち])という訳ではないが(ohne dass)、それにも拘わらず(doch)私はその意見をかなり注目に価するもの(bemerkenswert genug)と思う(etw. für soundso halten)。

Ohne dass ich die von diesem Politiker geäußerten Ansichten über Inflation, Agrarpolitik und Lebensmittelfrage in allen Punkten teile, halte ich sie doch für bemerkenswert genug.

6. 偉大なる世界史的な出来事(Weltbegebenheiten)の原動力(treibende Kräfte)をば、その根源的(ursprünglich)なる単純なる概念に於いて把握(fassen)し、その生成的(genetisch)発達に於いて追究する[繰り辿る](verfolgen)、これがあらゆる歴史編纂者(Geschichtsschreiber)の苦心多き(mühevoll)労作である。

Die treibende Kräfte der großen Weltbegebenheiten in ihren ursprünglichen einfachen Begriffen zu fassen und in ihrer genetischen Entwicklung zu verfolgen, das ist die mühevollen Arbeit aller Geschichtsschreiber.

7. かれの記事(Artikel, m.)は、簡素で(knapp)、全然その時々瞬間(der Augenblick)から生まれたもので、その軽快(beschwingt)、短急(kurz)、動的(beweglich)且つ皮肉なる剣術使い的リズム(Fechterrhythmus)は天下一品(einzig in seiner Art)であった。

Seine Artikel waren knapp, ganz aus dem Augenblick geboren und einzig in ihrer Art in dem beschwingten, kurzen, beweglichen und ironischen Fechterrhythmus.

8. 彼は、公平無私(unparteiisch)且つ清廉潔白(unbestechlich)であるというよりはむしろ(nicht so sehr.....als vielmehr.....)その人格(Wesen, n.)の根本(Grund, m.)に於いて冷酷(kaltblütig)且つ他人の言に耳を貸さざる(taub)、何事によっても拘束(bindet)することのできない利己主義者である。

Er ist nicht so sehr unparteiisch und unbestechlich, als vielmehr im Grund seines Wesens ein kaltblütiger, tauber Egoist, der durch nichts zu binden ist.

[21] 獲得目標の um

内務大臣は天皇陛下に辞表を奉呈した。

Der Minister des Inneren kam bei Seiner Majestät dem Kaiser um seine Amtsenthebung ein.

um の原意は、空間的で、「云々の周囲に」又は「云々を取り巻いて」即ち「云々を中心に」の意であるが、此の「.....を中心に」というのが、抽象的に用いられて、何でも吾人の Sorge(関心)が或る物を中心にとやかくと気を揉むことに用いられる。たとえば Sorge には um を附けて、Sorge um Geld(金の心配)とか Sorge um seine eigene Person

(自分の身の心配)とか云ったような用い方をする。日本語でも、金「ゆえ」に苦勞するとか云うが、その「故」が丁度此の型の *um* である。此の項の *um* には直接の関係があるから、二三その例を引いて置こう。

- [1] Das Herz blutet mir *um* unser aller Vaterland.
(我々一同の祖国の安危を慮って心血にじむ想いす。)
- [2] Fast jeder Vater ist *um* die Erziehung seiner Kinder verlegen.
(父という父が凡て己が子達の教育には弱っている。)
- [3] Wenn man so viele Tote gesehen hat, kann man so viel Schmerz
um einen einzigen nicht mehr recht begreifen. (Remarque, Im Westen nichts Neues.)
(人間が死ぬのを沢山見てしまうと、たった一人の人間が死んだからと云ってこんなに悲しむなんてことがどうもよく呑み込めなくなってしまう。)
- [4] Bekümmere dich nicht allzusehr *um* diese Nächsten!
(他人のことに気を揉み過ぎるべからず。)
- [5] Er beneidet mich *um* meine Anstellung.
(彼は私の就職を羨む。)

結局は動詞の前置詞支配の問題ではあるが、単に前置詞支配と云っても、その前置詞の用法にはやはり相当の訳もあれば範疇というものもある。前置詞の一用法を基準にして、その部類に入る動詞を覚えて行くのは作文の時には殊に必要である。

以上のような *um* の用い方から、それと殆ど同じような、但しこんどは少し新たな意味の附け合わた第二の *um* の用法が生じて来る。それは獲得せんとする目的物を指す *um* である。この *um* を支配するような動詞を挙げて見ると-----

<i>um</i> etwas bitten	を乞う	<i>um</i> etwas betteln	を物乞う
<i>um</i> etwas anhalten	をねだる	<i>um</i> etwas flehen	を嘆願する
<i>um</i> etwas einkommen	を求める	<i>um</i> etwas ansprechen	を求める

その他要するに「ねがう」に類する意味の動詞は凡て人間の四格と、獲得目標の *um* とを支配すると思つてよろしい。

これらは、はっきりと *um* を支配するものであるが、*um* には要するに「.....を得んがために」「.....を求めて」の意が生じた結果、何でも都合の好い動詞と *um* とを合わせて「ねがう、求める」の意を出すことが出来る。これは無限の類造を許すもの故、ほんの二三の例を示すにとどめておく。

<i>um</i> etwas telegraphieren	を電請する
<i>um</i> etwas fragen	を請う
<i>um</i> etwas kämpfen	を得んとして戦う
<i>um</i> etwas werben	を得んとして運動する
<i>um</i> etwas feilschen	のために懸引[かけひき]する

その他 *um* das tägliche Brot musizieren(樂を奏でて其の日の糧を稼ぐ)等、その時々に応じて勝手に作れるように練習しなければならない。
下に一寸困難な例を挙げておく、自分で研究されたい。

- [1] Wir stehen in der Auseinandersetzung *um* Sein und Nichtsein des modernen Staates in Deutschland.

- [2] Wer anders konnte davon unterrichtet sein als Daniel, der, störrisch und eigensinnig wie er war, vielleicht nur darauf wartete, dass man ihn *darum* befrage?
(E. T. A. Hoffmann, Das Majorat.)
- [3] Wollt ihr euch mit der Schaufel und Haue *um* einen Bissen trockenen Brodes abquälen?
(Schiller, Die Räuber, I. 2.)

例題

1. 市中だけでも (allein innerhalb) 二万人以上の人間が失業している (arbeitslos)。勿論彼等は食べるものもなければ飲むものもない。また吸う (rauchen) ものものなんにもない。彼等はただゴロゴロして (herumlungern) 吸ってしまった (ausgeraucht) 巻煙草の端 (Mundstück, n. Ende, n.) を物乞うのみである。

Allein innerhalb der Stadt sind mehr als zwanzig Tausend Menschen arbeitslos. Selbstständig haben sie weder zu essen noch zu trinken. Auch zu rauchen haben sie nichts.. Sie lungern nur herum und betteln um die Mundstück einer ausgerauchten Zigarette.

2. シェルブール (Cherbourg) の海軍当局 (Marinebehörden, pl.) は、沈没した潜水艦 (Unterseeboot, n.) プロメテー号 (Prométhée) を引き揚げ (heben) んとして、木曜夕刻以来、不眠不休の努力を続けている (fiebrig am Werk sein; ununterbrochen daran arbeiten)。数台の (mehrere) 水上飛行機 (Wasserflugzeug, n.) と一隻の飛行船は、該艦の正確なる位置 (Lage) を確定 (Feststellung) せんとして努力中 (sich um.....mühen) である。

Die Marinebehörden von Cherbourg sind seit Donnerstagabend fiebrig am Werk, um das gesunkene Unterseeboot "Prométhée" zu heben. Mehrere Wasserflugzeuge und ein Luftschiff mühen sich um die Feststellung der genauen Lage des Bootes.

3. 現代の大都会 (Großstadt) は、我々、殊に (insbesondere) 婦人の心を乱す (einem keine Ruhe lassen; einen verwirren)。我々が街を (durch) 散歩し、飾り窓 (Schaufenster, n.) の中から美しい商品 (Ware, f.) の豊富 (reichhaltig) なる陳列 (Auslagen, pl.) が買手の心をそそぐ (um Käufer werben) ていると (wenn)、我々には我々の小さな心配 (Sorgen) と、打算 (Berechnungen) と、そして詮[あきら]め (Resignationen) とがあるのである。

Die modernen Großstädte lassen uns, insbesondere den Frauen, keine Ruhe. Wir haben unsere kleinen Sorgen und Berechnungen und Resignationen, wenn wir durch die Straßen spazieren gehen und aus den Schaufenstern reichhaltige Auslagen schöner Waren um Käufer werben.

4. 首相 (Premierminister) は、今日の下院 (Unterhaus) の会議に於いて、多数の議員 (Abgeordnete, 形) から盛んに報告をせがまれ (jemanden um etw. bestürmen) たにも拘わらず此の事件 (Vorfall, m.) に一言の言及する (auf etw. Bezug nehmen) ところもなかった事は注目に値する (bemerkenswert sein; 或いは auffälligerweise 等の副詞によって表現する)。

Der Premierminister nahm in der heutigen Sitzung des Unterhauses auffälligerweise überhaupt keinen Bezug auf den Vorfall, obwohl er von zahlreichen Abgeordneten um Mitteilung bestürmt wurde,

5. 労働者 (die Arbeiterschaft) -----それは単に過激なる (radikal) もののみではない-----は、現今、直接 (unmittelbar) 間接に (mittelbar) 労働の減少 (weniger Arbeit) と賃金の増加 (mehr Lohn) を求めてのみではなく、むしろ、たとえ (auch wenn) その両者 (beides) が彼等に存分 (mit vollen Händen) 与え (gewähren, versichern) られるとしても、とにかく意識的に、且つ断乎たる決意を以て (entschlossen)、充分 (voll) にして且つ間然するところなき (unverkürzt) 社会組織化 (Sozialisierung) を目指して戦うのである。

Die Arbeiterschaft, nicht bloß die radikale, kämpft heute, mittelbar oder unmittelbar, nicht bloß um weniger Arbeit und mehr Lohn, sondern, auch wenn beides ihnen mit vollen Händen gewährt würde, bewusst und entschlossen um die volle, unverkürzte Sozialisierung

6. 我々はなるほど経済危機の最も嫌悪な(scharf)段階(Stadium, n.)は脱した(über etw. hinaus sein)、が併しまだ相変わらず好い時代(bessere Zeiten)が来そうにも思われない(Es sieht nach etw. aus を用いよ)。まだ幾年かは、最小限度必要(minimal notwendig)な量の米と石炭のために闘わねばならないであろう。

Zwar sind wir über das schärfste Stadium der Wirtschaftskrise schon hinaus, und doch sieht es noch immer nicht nach besseren Zeiten aus: noch eine Reihe von Jahren werden wir um die minimal notwendige Menge von Reis und Kohle kämpfen müssen.